

セイタカイワヒメワラビ *Hypolepis alpina* (Blume) Hook.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

コバノイシカグマ科 Dennstaedtiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

大型の常緑性シダ (静岡県では夏緑性)。イワヒメワラビに似るが、遙かに大型で、葉は1.5 mに達し、葉柄も太い。葉は軸も葉面も粘毛を密につけ、生時はねばつく。

2. 分布

国外では台湾、中国、フィリピン、インドシナ、ニュージーランド、ポリネシアに、国内では本州 (静岡県、三重県)、四国、九州 (鹿児島県)、伊豆諸島、小笠原、沖縄県に分布する。県内では西伊豆町 (旧賀茂村大久須) が唯一の産地で、分布の北限である。

3. 生育環境

低山地のやや日当たりのよい山地の林縁、やや湿潤なところに生育する。

4. 生育状況

本県では西伊豆町 (旧賀茂村) にのみ自生する。産地はきわめて局限され、個体数もごく限られている。なお当地にはイワヒメワラビとの雑種、アイワヒメワラビも知られている。

5. 減少の主要因と脅威

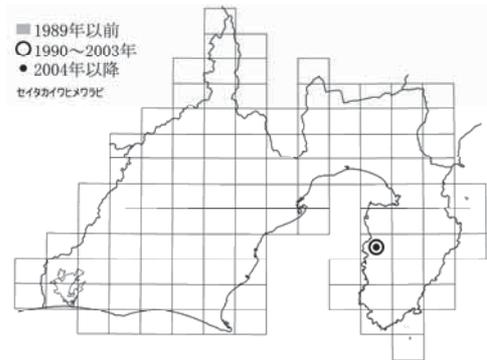
産地が限られ (61)、植生の遷移 (54) で減少している。生育地山林の伐採 (11)、林道の工事 (24) や、治水のためのダム建設 (25) などが脅威である。

6. 保護対策

減少の要因となる行為がなされないような対策が必要である。 (細倉哲穂)



西伊豆町 2005年10月30日 杉野孝雄



ハチジョウシダ *Pteris fauriei* Hieron.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②⑤) 変更なし

イノモトソウ科 Pteridaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

やや大型の常緑性シダ。葉は長さ1 mほどに達し、2回羽状、表面にはツヤがある。最下羽片には長い小羽片を1~3個出す。羽片は基部近くでやや狭まり、中部近くが最も幅広である。小羽片の辺には孢子囊群が先端近くまでつき、つかない部分は全縁である。

2. 分布

国外では台湾、中国、フィリピン、インドシナに、国内では本州南部 (伊豆半島、紀伊半島)、四国南西端、九州南部と琉球、伊豆諸島に分布する。県内では伊豆 (下田市須崎三井浜、南伊豆町) に分布する。

3. 生育環境

海岸に近い日当たりのよい地、低山地の林縁に生ずる。

4. 生育状況

県内の過去の記録地でも、ほとんどの場所で現存が確認されていない。確認されている所でも、個体数は極少である。

5. 減少の主要因と脅威

山林伐採など (11) による絶滅が懸念される。植生の遷移に伴う生育地の環境変化 (54) が脅威である。

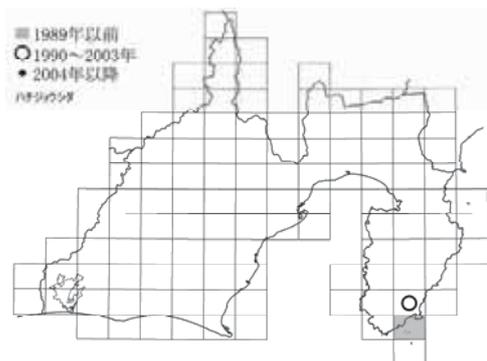
6. 保護対策

生育地の山林伐採や土地の改変、道路の改修などが行われないような保護対策が必要である。

(細倉哲穂)



河津町 1977年12月7日 細倉哲穂



ニシノコハチジョウシダ *Pteris kiuschiuensis* Hieron.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

イノモトソウ科 Pteridaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

やや大型の常緑性シダ。葉柄は30~50 cmに達し、葉身も長さ30~45 cmに達する。2回羽状複葉で葉は卵状三角形で、羽片は羽状に全裂、基部で少し短くなることある。葉は葉柄に対して傾いてつき、羽片は直角について鎌状に曲がる。

2. 分布

日本固有種で、本州（神奈川県、静岡県）、四国、九州に分布する。県内では伊豆（西伊豆町（旧賀茂村）や河津町上佐々野鉢ノ山など）に分布する。北限は神奈川県で、静岡県は準北限である。

3. 生育環境

暖地のやや陰湿な土壌、常緑樹林下やスギの人工林下に生育する。

4. 生育状況

産地は局限され、個体数も極少である。

5. 減少の主要因と脅威

産地が限られ（61）、たまたま根づいた生育地でも、その後環境変化（71）で減少している。山林伐採による生育地の消滅（11）が脅威である。

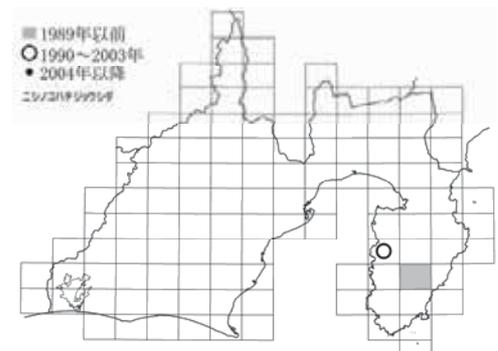
6. 保護対策

生育地の山林伐採、林道の整備や河川改修工事などによる生育地の環境変化による生育地での消失を防ぐ必要がある。

（細倉哲穂）



河津町 1977年12月7日 細倉哲穂



ヤクシマホウビシダ *Hymenasplenium obliquissimum* (Hayata) Sugim.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

チャセンシダ科 Aspleniaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

小型の常緑性シダ。ホウビシダに似るが、それより全体小型で、葉長は20 cmほどで狭披針形。根茎の鱗片はホウビシダより幅広で、淡褐色である。葉質はきわめて薄く、透けて見えることが多い。

2. 分布

国外では台湾、中国、インドシナに、国内では本州（伊豆半島、紀伊半島）、九州（鹿児島県）に分布する。県内では河津町沼ノ川に分布する。伊豆は本種の分布北限である。

3. 生育環境

山林中の溪流沿い、陰湿で水がしたたるような岩壁に生育する。

4. 生育状況

静岡県では河津町の唯一個所に生育、小群落を作って生育し、個体数も極少である。

5. 減少の主要因と脅威

産地が限られ（61）、河川の改修、ダム建設などによる生育環境の悪化（13、25）による絶滅が懸念される。

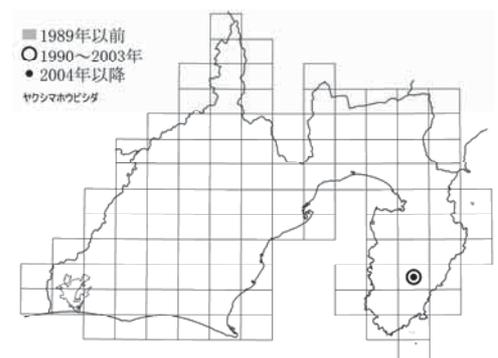
6. 保護対策

河川の改修、ダムの建設などで、生育地の環境が影響を受けないような対策が必要である。

（細倉哲穂）



河津町 2004年3月28日 内藤宇佐彦



カミガモシダ *Asplenium oligophlebium* Baker

(=ヒメチャセンシダ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

チャセンシダ科 Aspleniaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

小型の常緑性シダ植物。ヌリトラノオ *A. normale* に似るが、全形やや小さく、葉長 20 cm ほどまで。根茎は短く斜上し、葉を叢生する。単羽状複生で、葉柄と中軸は紫褐色である。羽片は中～深裂し、耳片は突出する。無性芽をつける。

2. 分布

日本固有種で、本州（新潟県・伊豆半島以西）、四国、九州、屋久島に、県内では伊豆と西部に分布する。伊豆は太平洋側の東限自生地である。

3. 生育環境

暖地の林内、やや陰湿な場所の岩上、地上に生育する。中軸の先が伸びて、地に接したところで芽をつけ無性的に殖えるので、伊豆の生育地では面積は狭い岩面であるが、やや密な群落をつくっている。

4. 生育状況

伊豆市と湖西市に生育する。産地は限られているが生育地では群生する。県内では近年生育が確認された。

5. 減少の主要因と脅威

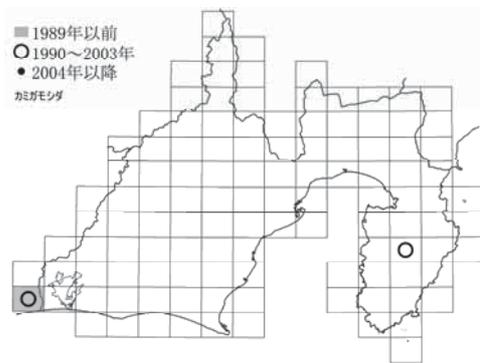
山林伐採 (11)、道路工事 (24) などによる生育環境の悪化・消失が心配される。

6. 保護対策

静岡県は分布の限界地であり、生育地の保全は特に重要である。
(内藤宇佐彦・細倉哲穂)



湖西市 1998年3月1日 内藤宇佐彦



イチョウシダ *Asplenium ruta-muraria* L.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

チャセンシダ科 Aspleniaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

小型の常緑性シダ。根茎は塊状で葉を叢生する。葉身は長さ 2~7 cm、2回または単羽状で三角状、裂片は扇形または菱形である。この裂片の形状が和名の由来である。孢子嚢群は数個が裂片の中央に集まる傾向がある。

2. 分布

国外では北半球の温帯に、国内では北海道から九州に分布する。県内では西部の石灰岩地帯に分布する。

3. 生育環境

亜高山帯から温帯の林中またはやや裸出した石灰岩の岩隙に生じる。

4. 生育状況

旧水窪町の石灰岩地の岩隙に少数株が生育する。減少傾向が著しい。

5. 減少の主要因と脅威

もともと産地も個体数も少なく (61)、園芸採取 (41) が減少の一因と考えられる。

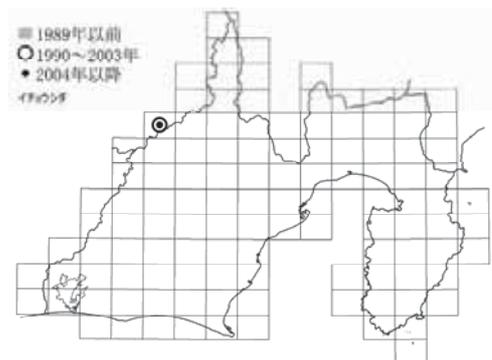
6. 保護対策

石灰岩地の保全と、園芸採取を防ぐために産地情報の公表には十分な配慮が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 1998年4月12日 宮崎一夫



タチヒメワラビ *Thelypteris bukoensis* (Tagawa) Ching

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ヒメシダ科 Thelypteridaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

中型からやや大型の夏緑性シダ。根茎は長く這い、葉を疎らに出す。鱗片は褐色、全体に星状分岐毛、針状毛が多い。葉身は広披針形で鋭尖頭、基部は狭まり二回羽状深裂する。小羽片の基部は羽軸に流れ、狭い翼となって流れつく。

2. 分布

日本固有種で、本州（岩手県、新潟県、関東地方西部、中部地方東部）、四国（高知県）に分布する。県内では東部（小山町）に分布し、本州における分布南限である。国外（インド）からの報告は不確かである。

3. 生育環境

山地のやや霧が多い腐植土の厚い林床、あるいは草原に生育する。

4. 生育状況

県内では小山町の三国山塊にごく稀に知られるのみである。近隣の山梨、長野では多産地があるが、静岡県は決して生育適地ではないと思われる。前回（2004年）調査以降に孢子囊群をつけた株が若干確認された。

5. 減少の主要因と脅威

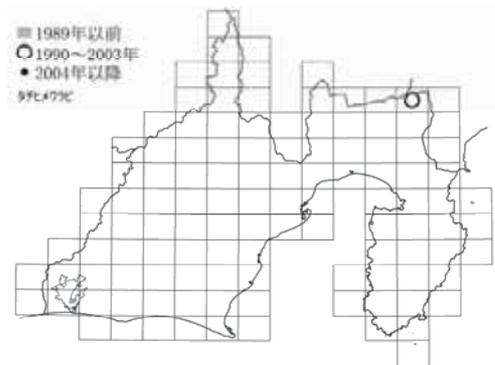
産地が局限され、個体数も少ない（61）。よって植生の変化による環境の変化が脅威（54）である。

6. 保護対策

生育地の植生の遷移による環境変化や、山林伐採、開発行為による影響を防ぐ必要がある。（細倉哲穂）



小山町 1999年9月12日 細倉哲穂



ルリデライヌワラビ *Athyrium wardii* (Hook.) Makino var. *inadae* Tagawa

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

イワデンダ科 Woodsiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

中型の夏緑性シダ。ヒロハイヌワラビの一変種とされており、これに似ているが、葉身の先は急に狭くなり、一見頂羽片があるように見える。小羽片はこみ合っつき、小羽片の先は鈍頭から円頭である。羽片基部は羽軸に流れ、沿着する。

2. 分布

日本固有変種で、本州（神奈川県以西）、四国、九州に分布する。県内では伊豆（旧天城湯ヶ島町、河津町など）に分布する。

3. 生育環境

低山地の林内、特にスギの人工林下に生息する。

4. 生育状況

個体数はきわめて少なく、生育状況も散在的である。

5. 減少の主要因と脅威

生育地及び近隣地域の山林伐採など環境変化（11）による個体数の減少、絶滅が懸念される。

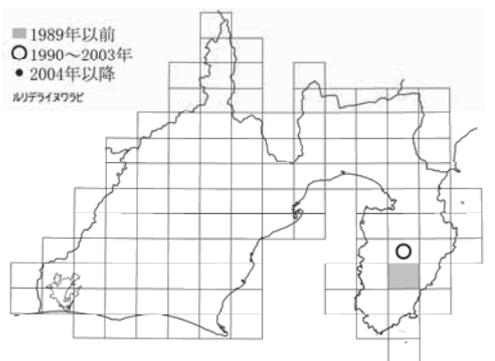
6. 保護対策

本種の生育地のほとんどは、スギの人工林下にある。山林伐採など生育地環境の改変を防ぐ必要がある。

（細倉哲穂）



伊豆市 2003年11月3日 細倉哲穂



コウライイヌワラビ *Deparia coreana* (H. Christ) M. Kato

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

イワデンダ科 Woodsiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

中型からやや大型の夏緑性シダ。根茎は短く這い、葉を叢生する。葉は単羽状複生で、オオメシダに似るが全体はずっと小型で、葉柄 50 cm ほど、葉身は 1 m ほどまで。羽片は中～深裂し、小羽片の基部は羽軸に流れ、幅 1 mm の翼を作る。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国の東北部に、国内では本州（青森県以南の東北地方、栃木県、山梨県、静岡県）、四国（愛媛県）、九州（長崎県、大分県）に分布する。県内では東部（御殿場市、裾野市、富士宮市）に分布する。

3. 生育環境

低山地の林内、やや日当たりのよい陰湿な場所に生じる。

4. 生育状況

県内産地のほとんどの場所で絶滅した。

5. 減少の主要因と脅威

植生の遷移 (54)、生育地の造成工事 (23) が脅威である。

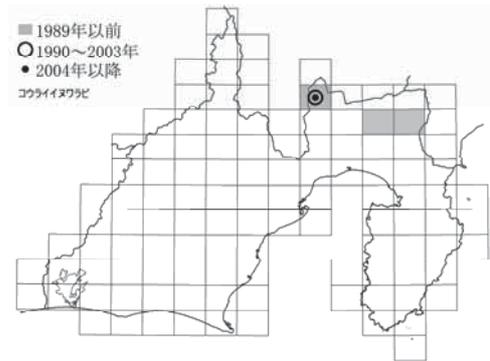
6. 保護対策

ごく少なくなった生育地及びその周辺では、山林伐採などによる乾燥化、向陽化を防ぐ必要がある。不用意な開発による減少や絶滅を防ぐ必要がある。

(細倉哲穂)



富士宮市 2004年10月10日 杉野孝雄



ミドリワラビ *Deparia viridifrons* (Makino) M. Kato

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

イワデンダ科 Woodsiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

大型の夏緑性シダ。根茎は短い太く這い、葉を密生させる。オオヒメワラビの発育のよい葉に似るが、葉身はほぼ三角形、小羽片は浅～中裂し、羽軸に狭い翼をもつ。葉は 1 m 前後にも達し、葉柄鱗片は淡茶色、広披針形状で疎らである。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では本州（主に太平洋側）、四国、九州に分布する。県内では、東部（御殿場市）、伊豆（旧天城湯ヶ島町、河津町）、西部（春野町）に分布する。

3. 生育環境

低山地の林内、山すそのやや陰湿な地上に生育する。案内人里に近い低地に多く生育する。

4. 生育状況

県内の産地は、人里に近い低地の山すそ、斜面などであり、現にこれまで記録のあった所でも、今ではほとんど再確認ができない。

5. 減少の主要因と脅威

生育地及び近隣の地の山林の伐採 (11)、河川の改修 (13) など、生息環境の悪化が懸念される。

6. 保護対策

生育地山林の伐採、河川工事、周辺の道路拡幅工事などによる環境変化、向陽化を防ぎたい。不用意な開発により、絶滅しないようにしたい。

(細倉哲穂)



御殿場市 2002年10月17日 細倉哲穂



コガネシダ *Woodsia macrochlaena* Mett. ex Kuhn

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

イワデンダ科 Woodsiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

小型の夏緑性シダ。葉柄の関節は頂端にある。中軸や羽片には毛があり鱗片はない。葉は1~2羽状複葉。羽片は中~深裂し基部に耳片はない。胞膜に縁毛がある。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ロシア東部に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、西部に分布する。

3. 生育環境

山麓の林内や林縁などの岩上に生育する。

4. 生育状況

産地は限られていて産量は少ない。生育地の消失や植生の遷移で絶滅したところもある。

5. 減少の主要因と脅威

産地が里地にあるところもあり生育地が失われやすい(23)。植生遷移(54)の影響も無視できない。

6. 保護対策

造成工事などで生育地が消失しないような対策が必要である。

(内藤宇佐彦)



伊東市 2005年4月30日 杉野孝雄



ヒロハアツイタ *Elaphoglossum tosaense* (Yatabe) Makino

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

常緑性シダ。葉は栄養葉と孢子葉の2形がある。栄養葉の葉柄は長さ5~8cm、葉身は長さ5~15cm、革質長楕円~狭楕円形で葉縁に半透明の薄膜がある。孢子葉の葉柄、葉身は栄養葉とほぼ同長、葉裏一面に孢子嚢が広がる。

2. 分布

日本固有種で、本州(静岡県、紀伊半島)、四国、九州、屋久島、伊豆諸島に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

陰湿な山林中の樹幹や岩上に生じる。

4. 生育状況

西部の山中、深い谷間で川岸の岩に少数株が生育している。

5. 減少の主要因と脅威

もともと稀少な植物であるので、園芸採取(41)や自然災害(55)で容易に消滅する可能性がある。

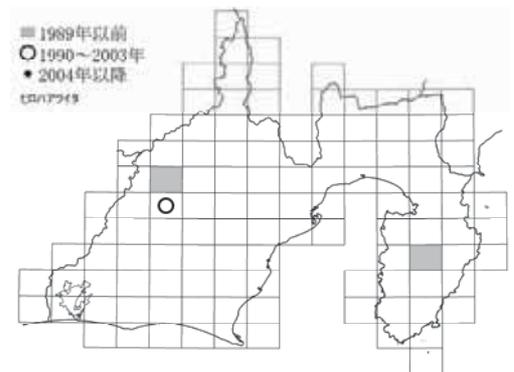
6. 保護対策

生育地付近の森林保護と園芸採取を防ぐため、産地情報の公表には慎重な配慮が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 1995年1月3日 宮崎一夫



オトコシダ *Arachniodes yoshinagae* (Makino) Ching

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

大型の常緑性シダ。葉柄は 35 cm、葉身は 65 cm に達する。葉身は単羽状から 2 回羽状複生的になり、羽片は浅～全裂する。裂片はほぼ全縁、孢子嚢群は裂片の中肋と辺縁の中間位に位置し、円形で、辺が全縁の包膜である。

2. 分布

国外では中国、インドシナ、タイ、ビルマ、ヒマラヤに、国内では本州（神奈川県、伊豆半島、紀伊半島、山口県）、四国、九州に分布する。県内では伊豆（河津町、西伊豆町）に分布する。

3. 生育環境

暖地の山林内の林床、やや陰湿な谷間の斜面や林内に生育している。

4. 生育状況

分布は局限され、個体数も極少である。前回（2004年）の段階より、さらに減少の傾向にある。

5. 減少の主要因と脅威

山林伐採などによる生息環境の悪化（11）により絶滅が危惧される。

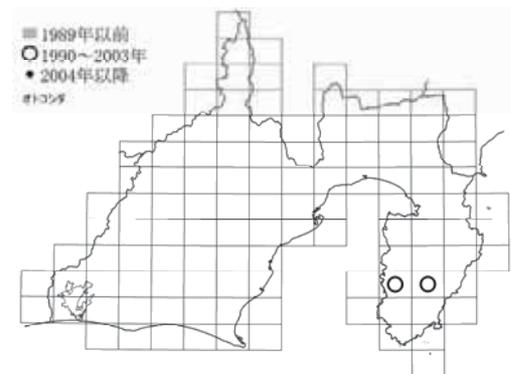
6. 保護対策

生育地の山林伐採や林道の拡幅、改修工事などにより、生育環境に影響が生じないような対策が必要である。

（細倉哲穂）



河津町 2003年1月19日 杉野孝雄



ナガサキシダ *Dryopteris sieboldii* (Van Houtte ex Mett.) Kuntze

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

大型の常緑性シダ。根茎は短く這い、葉を叢生する。葉は長さ 70 cm に達し、単羽状複生で、はっきりした頂羽片をもつ。側羽片は 3 対前後で、孢子嚢群は羽片全面に散在してつく。孢子嚢群をつける羽片は、つけない羽片よりやや狭くなる。

2. 分布

国外では中国に、国内では本州（千葉県以西）、四国、九州に分布する。県内では伊豆（熱海市、河津町）、中部（静岡市）に分布する。

3. 生育環境

暖地の山地林内、やや陰湿な場所に生育するが、稀である。

4. 生育状況

河津町の産地では、現在も生育が確認されているが、個体数が減れば、絶滅のおそれもある。記録のある他の場所では、今日では生育が確認されず、絶滅した可能性がある。

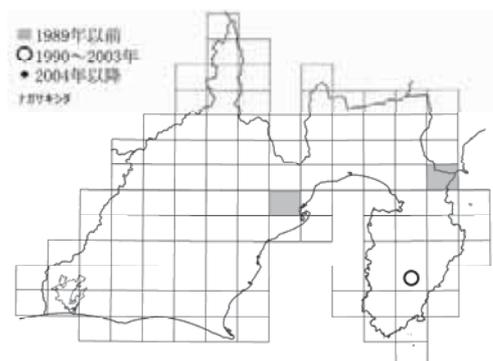
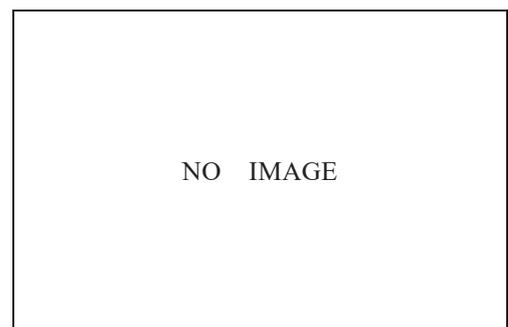
5. 減少の主要因と脅威

生育地の植生遷移（54）、山林の伐採（11）が減少の主要因である。山林の開発（23）、河川のダム建設など（25）も危惧される。

6. 保護対策

山林伐採や、河川の改修、ダム建設などにより、生育環境に影響が生じないような対策が必要である。

（細倉哲穂）



センジョウデンダ *Polystichum atkinsonii* Bedd.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②⑤) 変更なし

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

小型の常緑性シダ。葉柄は長さ7 cm、葉身は単羽状複生で長さ5~10 cmほど。一見ツルデンダに似るが、無性芽は葉身先端近くの葉軸上に生じ、小羽片は長楕円形で、卵形に近い。孢子嚢群は、中肋と辺縁の中間につき、包膜は大きく、径1~1.5 mmほど。

2. 分布

国外ではヒマラヤ、ネパールに、国内では南アルプスの仙丈岳(長野県)、悪沢岳(静岡県)に分布する。ヒマラヤのものとは別種とする考えでは学名 *P. gracilipes* C. Chr. var. *gemmiferum* Tagawa となり、この場合は南アルプス固有変種となる。

3. 生育環境

高山帯の岩の割れ目にごく稀に生ずる。ヒマラヤ、ネパールに生ずるものは、亜高山帯の針葉樹林下、溪流近くのやや湿った岩上に生育する。

4. 生育状況

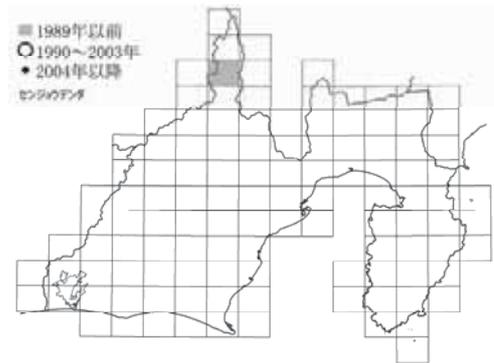
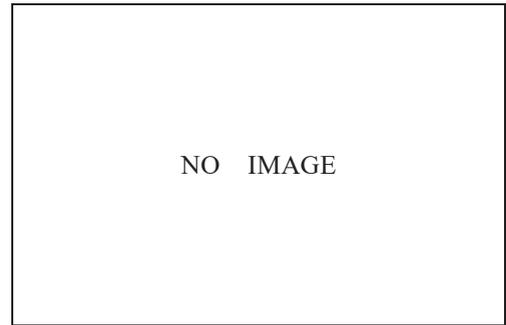
近年は生育が確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

生育の記録のある所では、自然環境の悪化(71)による絶滅が懸念されている。

6. 保護対策

生育地での再確認が是非とも必要である。また、この生育地あるいは近隣での生育が確認された場合は、生育環境に変動を与えないような対策が必要である。(細倉哲穂)



タカネシダ *Polystichum lachenense* (Hook.) Bedd.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 I A類 (CR)]

1. 種の解説

小型の夏緑性シダ。根茎は短く密に鱗片をつける。葉柄はやや太く長さ3~10 cm、葉が枯れた後も残る。葉身は単羽状複葉の線形で長さ5~20 cm。羽片は長卵形でわずかに羽裂する。不定芽はできない。孢子嚢群は中肋よりにつき包膜は中心でつく。近似種のイナデンダは葉柄が細く、包膜は中心からずれてつく。

2. 分布

国外では中国、台湾、南アジアに、国内では本州中部(山梨県、長野県、静岡県)に分布する。県内では中部(南アルプス)と東部(富士山)に分布する。

3. 生育環境

亜高山から高山の岩上や岩隙に生育する。

4. 生育状況

産地は局部的である。産量はきわめて少ない。大きな岩の隙間や下部に生育する。南アルプスの産地は既知であるが、富士山は新産地である。

5. 減少の主要因と脅威

岩塊の崩壊(55)や植生遷移(54)が生育の圧力である。登山者の踏圧(51)や採取(41)も脅威である。

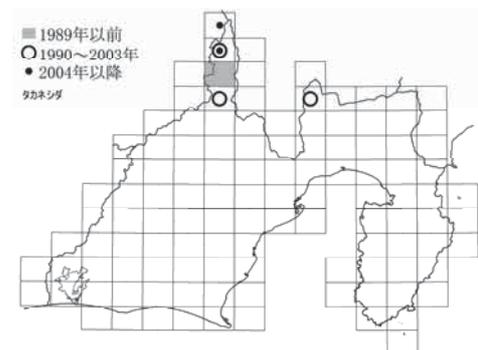
6. 保護対策

産地に踏圧を与えないように登山道の迂回整備をする。

(宮崎一夫)



静岡市 2004年8月7日 宮崎一夫



オニイノデ *Polystichum rigens* Tagawa

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

中型の常緑性シダ。葉の長さは70 cmほどに達する。根茎は短く直立～斜上する。葉は広披針形で2回羽状複生。葉質はかたい革質で、小羽片は卵状長楕円形、多くは基部で沿着、辺縁は浅い鋸歯縁で、鋸歯の先は痛いほどかたい刺となる。葉柄の鱗片は淡褐色で広披針形、葉軸の鱗片は色が濃く、褐色がかっている。孢子嚢群は、やや中肋寄りにつく。よく似た種類にヒメカナワラビとオオキヨズミシダがあり、オニイノデとヒメカナワラビの中間の形質をもつのが、オオキヨズミシダである。

2. 分布

国外では中国に、国内では本州（茨城県以南）に分布する。県内では伊豆、東部に分布する。

3. 生育環境

暖地の山地、林床や溪流沿いのやや陰湿な斜面などに生育する。

4. 生育状況

天城山中、箱根山地などに分布が確認されるものの、個体数はきわめて少ない。

5. 減少の主要因と脅威

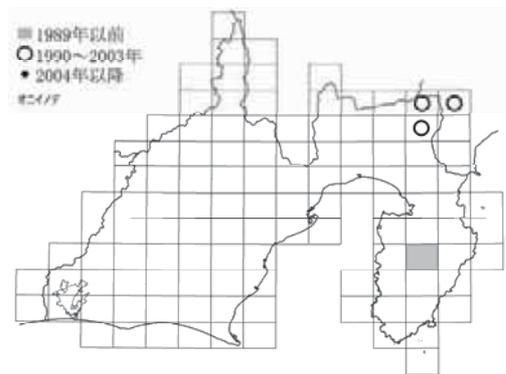
山林の樹木伐採（11）や林道の改修、整備（24）などによる生育地の消失、絶滅が懸念される。

6. 保護対策

林道の改修、整備、山林の伐採などによる環境悪化から、生育地を保護する必要がある。（細倉哲穂）



小山町 2002年1月4日 細倉哲穂



クラガリシダ *Lepisorus miyoshianus* (Makino) Fraser-Jenk.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ウラボシ科 Polypodiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

常緑性シダ。外見はシシランに似る。根茎は短く這う。葉はひも状で、長さ40 cmに達する。孢子嚢群は葉軸の両側の溝につく。葉軸は葉の表面は窪み、裏面は突出する。

2. 分布

国外では台湾、中国、インドに、国内では本州（中部地方以西）、四国、九州に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

空中湿度の高い自然林の古木樹幹や岩上に着生し垂れ下がる。

4. 生育状況

旧水窪町などに生育する。ほとんどの生育地が失われた。

5. 減少の主要因と脅威

山林伐採（11）、河川開発（13）などによる生育地の消失、空中湿度の低下などで、絶滅するおそれがある。

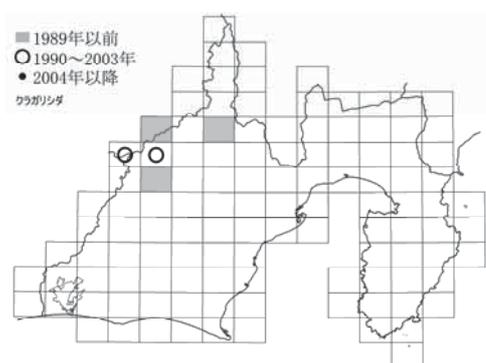
6. 保護対策

空中湿度の高いところに生育するので、現存する生育地は周辺部もふくめ広く保全することが重要である。また、着生する古木・大木の保存も重要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 1985年4月29日 内藤宇佐彦



ミョウギシダ *Polypodium someyae* Yatabe

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

ウラボシ科 Polypodiaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

夏緑性シダ。根茎は長く這い、鱗片で被われ褐色である。葉身は長さ10~30 cm前後、草質の卵形で羽状に深裂して先は急に尾状となる。側裂片は7~15対あり縁には粗い鈍鋸歯がある。葉脈は部分的に網目がある。近似種のアオネカズラは冬緑性で根茎は青緑色、葉は革質の三角状長楕円形である。

2. 分布

日本固有種で、本州（関東地方、中部地方）、四国に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯深山の溪谷に沿った岩上や樹幹に着生する。

4. 生育状況

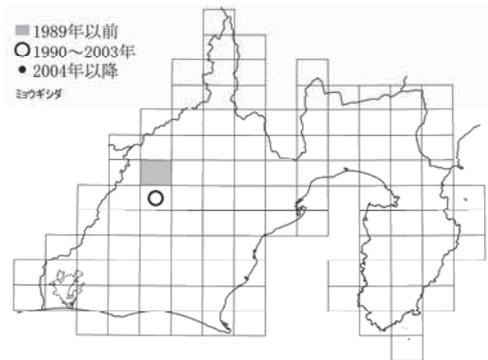
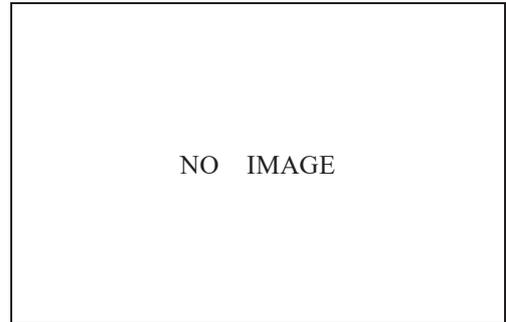
県内では中部の安倍峠などや西部の水窪などに生育する。近年は確認されず、ほとんどの産地が失われたと思われる。

5. 減少の主要因と脅威

古木の伐採(11)や河川改良(13)、林道工事(24)による生育環境の悪化及び園芸採取(41)が脅威である。

6. 保護対策

現存する生育地の環境保護や、採集行為からまもることは重要である。
(宮崎一夫)



ヒツジグサ *Nymphaea tetragona* Georgi

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

スイレン科 Nymphaeaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

浮葉性の多年草。浮葉植物で、地下茎は塊状で太く短い。沈水葉は側裂片が横に広がり矢尻形で長さ15 cm。浮葉は卵円形で長さ5~30 cm、深く切れ込む。葉裏は淡赤紫色。気孔は葉の表面のみにあり裏面にはない。花期は6~10月。花は径3~7 cm。萼片は4個、花弁は白色で8~15個。雄蕊は多数の心皮が合生する。開花期間は2~3日。雌性先熟で雌蕊は1日目に成熟する。雄蕊は2日目に成熟する。近似種のスイレンは園芸逸出である。

2. 分布

国外ではヨーロッパ、東アジア、インドに、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では中部に分布する。

3. 生育環境

低地のやや富栄養な池に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には、低地の広くに記録があり、特に西部では多くの産地が記録されている。産地は少なく産量も少ない。しかし近年は確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

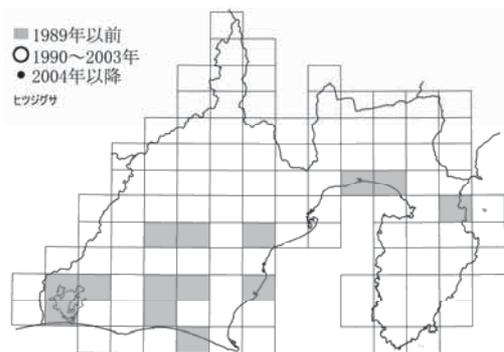
池の破壊(12)やハスなど他の水生植物との競合(56)が生育の圧力である。園芸採取(41)も脅威である。

6. 保護対策

無用となった古池も先住生物の生存権があるので破壊することは避ける。
(宮崎一夫)



掛川市 1986年10月9日 杉野孝雄



オオヤマレンゲ *Magnolia sieboldii* K. Koch subsp. *japonica* K. Ueda

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

モクレン科 Magnoliaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉低木。高さ5 m。幹は斜上して屈曲する。葉は全縁で互生し広倒卵形で長さ6~18 cm。葉柄は長さ2~4 cm。花期は6~7月。花は径5~10 cm、白色で頂生しやや下向に開き芳香がある。外花被片(萼片)は3個で赤色を帯び、内花被片(花瓣)は6個で白色。雄蕊は多数あり、葯は淡黄色。集合果は長楕円形で長さ6 cm、赤熟する。近縁種のホオノキは花が上を向いて開く。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では本州(関東地方以西)、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

温帯山地の尾根に沿った岩礫地の落葉樹林中に生育する。

4. 生育状況

産地は浜松市天竜区に局限している。産量は極度に少ない。枯れた親株の根元から萌芽している。生育は周囲の針葉樹に被陰されて不良である。

5. 減少の主要因と脅威

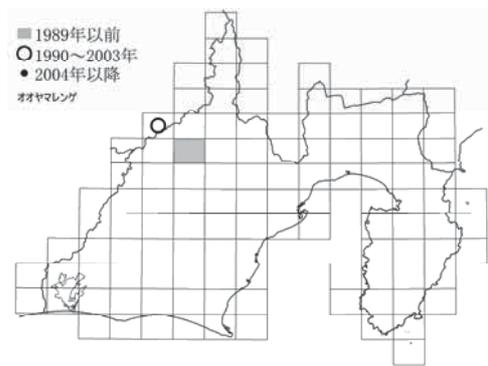
落葉樹林の皆伐(11)と、被陰による生育阻害(54)が主要因である。園芸目的の採取(41)も脅威である。

6. 保護対策

落葉樹林の伐採を回避する。周辺樹木の伐開により光条件の改善を図る。(宮崎一夫)



©PIXTA



シコクヒロハテンナンショウ *Arisaema longipedunculatum* M. Hotta

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

サトイモ科 Araceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ40 cmほど。葉は1個稀に2個。偽茎部は葉柄部より短く、偽茎部の開口部は襟状に広がらない。小葉は5~7個で小葉間の葉軸はほとんど発達しない。小葉の縁には粗い鋸歯がある。花期は6月。花時の花柄は葉柄より短く仏炎苞は白緑色である。

2. 分布

日本固有種で、本州(静岡県、山梨県)、四国、九州に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

落葉樹林の林内に生育する。

4. 生育状況

静岡市と旧中川根町に生育する。産地は限られて個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

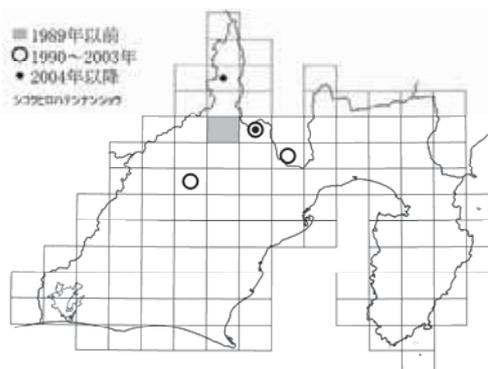
山林伐採(11)による生育地の消失が懸念される。

6. 保護対策

生育地における山林伐採の制限などの保護対策が必要である。(内藤宇佐彦)



静岡市 2010年6月26日 内藤宇佐彦



オオミネテンナンショウ *Arisaema nikoense* Nakai

subsp. *australe* (M. Hotta) Seriz.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-②③) 変更なし

サトイモ科 Araceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ15~50 cm。葉は2個ときに1個、偽茎部と葉柄部はほぼ同長。葉身は5 (~7)小葉に分かれ、小葉間の葉軸はほとんど発達しない。花序柄は花時には葉柄よりも長い。仏炎苞は紫褐色から帯紫色。花序付属体は細棒~やや棍棒状。淡紫褐色で斑がある。花期は5~6月。地下の球茎の腋芽は子球に発達する。

2. 分布

日本固有亜種で、本州(静岡県、山梨県、近畿地方の大峰山系)に分布する。県内では伊豆、東部、中部に分布する。

3. 生育環境

温帯林の林床に生育する。

4. 生育状況

伊豆半島、東部の富士山麓、中部の安倍峠から山伏周辺に記録がある。前回(2004年)調査以降、富士山麓や井川の県民の森周辺で新たな産地が確認されたが、そのうち県民の森では、急激に減少している。

5. 減少の主要因と脅威

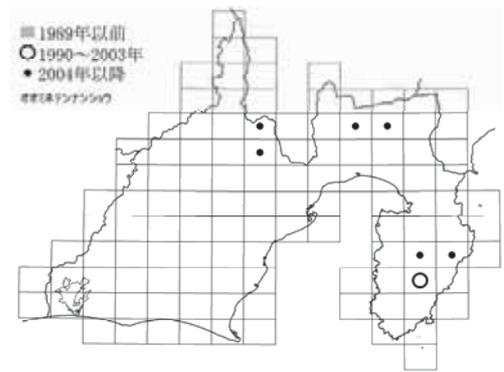
園芸用採取(41)、シカによる食害(52-1)が減少の主要因である。テンナンショウ属植物はシカの嗜好植物であるが、シカの食痕が認められる個体もある。

6. 保護対策

シカよけの柵を設置すること。(湯浅保雄)



裾野市 2017年5月31日 湯浅保雄



ムサシモ *Najas ancistrocarpa* A. Braum ex Magnus

(= マガリミサヤモ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

トチカガミ科 Hydrocharitaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

沈水性の一年草。茎は細くよく分枝する。葉は糸状で長さ1~2 cm、幅0.15~0.2 mmで縁に鋸歯がある。葉鞘は切形である。花期は7~9月。雄花は苞鞘に包まれ、雌花の基部にも苞鞘がある。種子は三日月形で葉脇につく。

2. 分布

国外では台湾、北米(帰化?)に、国内では本州、四国に分布する。県内では西部の低地に分布する。

3. 生育環境

低地の池沼や川に生育する。

4. 生育状況

浜松市などに生育する。個体数も多く良好な生育場所もあった。養魚場跡の生育地はほとんど消滅した。

5. 減少の主要因と脅威

池沼の埋め立て(12)や水質悪化(31)が減少の要因である。

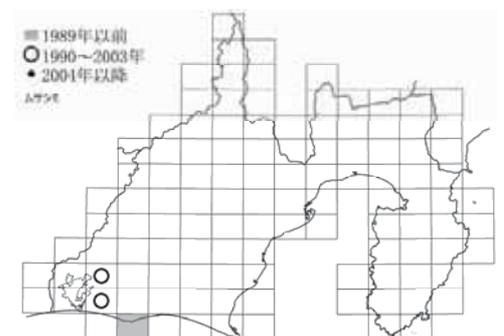
6. 保護対策

生育地と水質の保全、灌漑用にせき止めた川が生育地のものは、現況の維持が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2001年8月16日 内藤宇佐彦



リュウノヒゲモ *Potamogeton pectinatus* L.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ヒルムシロ科 Potamogetonaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

沈水性の多年草。水中茎はきわめて細く、よく分枝し長さ0.3~2 mとなる。葉は水中茎に互生し、針状で長さ5~15 cm、幅0.3~1.3 mm。葉の基部は托葉と合着して葉鞘となり茎を抱く。花期は6~9月。葉腋から細い5~20 cmの花茎を出し、その先に長さ1.5~4 cmの穂状花序をつけ、水面上によこたわる。花は両性花で花被片様の葯隔付属突起が4個、心皮が4個ある。

2. 分布

国外では世界に広く、国内では北海道、本州、四国、九州、琉球に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

温帯から熱帯の淡水から汽水の湖沼や水路。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)では、浜松市天竜区や浜名湖周辺の記録があり、また前回(2004年)調査では遠州灘に注ぐ河川の河口で確認されている。今回も西部で確認された。

5. 減少の主要因と脅威

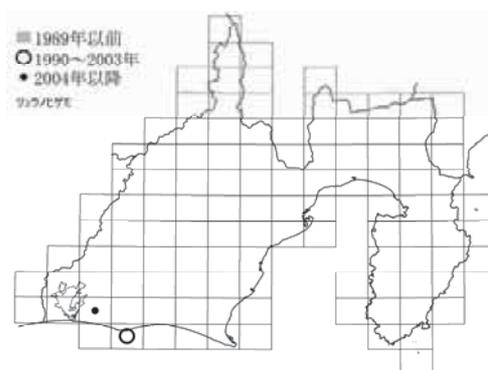
河川の開発(13)や海岸整備(14)などによる生育環境の消失が減少の主要因である。また水質汚濁(31)の影響も指摘されている。

6. 保護対策

生育環境に配慮した保護が必要である。(湯浅保雄)



浜松市 2007年9月3日 加藤 徹



ホンゴウソウ *Sciaphila nana* Blume

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ホンゴウソウ科 Triuridaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

菌従属栄養植物の多年草。高さ3~13 cm。茎、葉は紫赤色。葉は鱗片状に退化し、葉緑素はない。花期は7~10月。4~15個の花をつける。雄花の葯隔に付属突起がある。小型で暗い色なので、目立ちにくい。

2. 分布

国外では東南アジアに、国内では本州(千葉県以西)、四国、九州、沖縄に分布する。県内では、伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

スギ林などの暗い林の落ち葉の間に生える。

4. 生育状況

伊東市、静岡市、三ヶ日町などに生育する。産地は限られていて、生育地での個体数は少ない。

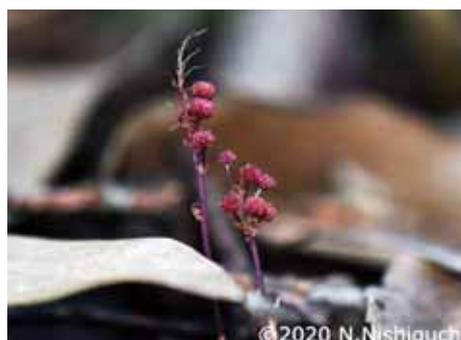
5. 減少の主要因と脅威

踏みつけの影響(51)は受けるが、森林伐採(11)などの環境の変化の影響が大きい。

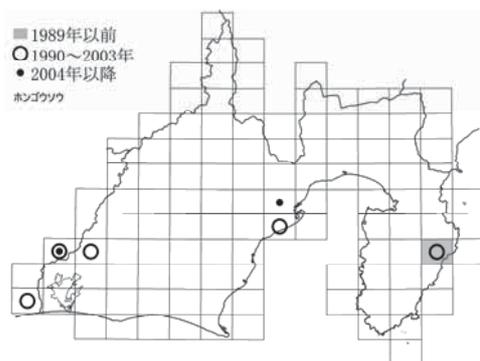
6. 保護対策

自生地への立ち入りは、極力避けたい。多年草ではあるが、長期間同一場所に生育しないようなので積極的な保護は難しい。

(西口紀雄)



静岡市 2016年8月31日 西口紀雄



ウエマツソウ *Sciaphila secundiflora* Thwaites ex Benth.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件①②) 変更なし

ホンゴウソウ科 Triuridaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

菌従属栄養植物の多年草。高さ6~10 cm。全体に赤紫色を帯びる。茎の径0.8 mmでほとんど分枝しない。葉は鱗片状で長さ約3 mm、葉緑素はない。花期は7~9月、総状花序は長さ1~4 cmで、上部に雄花、下部に雌花がつく。雄花の花被は深く6裂し、裂片は細い線形、雌花の花被も6裂するが、裂片は雄花より幅広く披針形である。

2. 分布

国外では台湾、香港、タイ、ニューギニア、スリランカに、国内では本州(新潟県、関東以西)、四国、九州、琉球、小笠原に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の樹林内の暗い地上に生育する。

4. 生育状況

県内では初めて伊東市で確認されたが、その後の消長は不明である。

5. 減少の主要因と脅威

森林の伐採(11)や開発(23)が減少の主要因である。

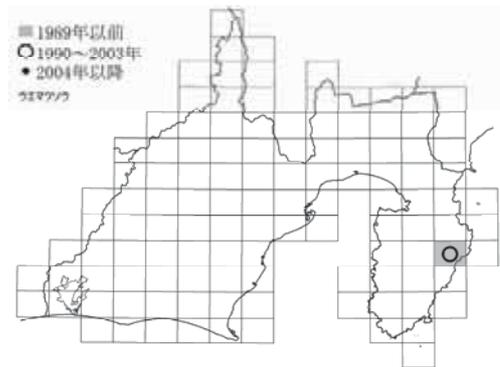
6. 保護対策

生育が確認されたら、その生育環境を維持すること。

(湯浅保雄)



伊東市 1995年7月9日 加藤 徹



ミカワバイケイソウ *Veratrum stamineum* Maxim. var. *micranthum* Satake

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件①②) 変更なし

シュロソウ科 Melantheriaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ50~100 cm。高地に生える基本種のコバイケイソウに比べ、花は小さく花被片の縁が細かく切れ込む。雄蕊は、花被片の2倍ある。花期は5~6月。茎頂に円錐花序がつき、花は白緑色である。コバイケイソウが湿地に遺存して分化した、貴重な植物である。

2. 分布

日本固有変種で、本州(静岡県、愛知県、長野県、岐阜県、三重県)に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

台地周辺の湧水湿地に生育する。

4. 生育状況

浜松市に生育する。かつては三方ヶ原台地周辺の湧水湿地に広くみられたが、稀な植物となった。

5. 減少の主要因と脅威

湿地の開発(15)、管理放棄による遷移の進行(54)、乾燥化など(53)で多くは消滅した。

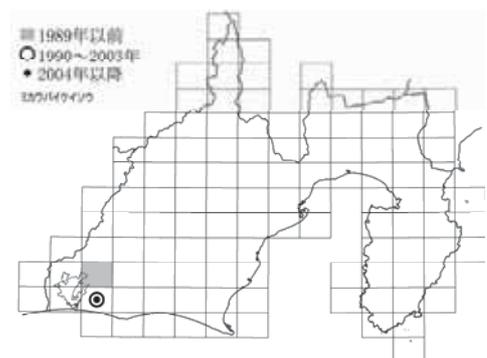
6. 保護対策

生育地の立ち入りの禁止、草刈りなどの植生遷移の抑制が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2015年4月22日 宮崎一夫



チャボシライトソウ *Chionographis koidzumiana* Ohwi

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

シュロソウ科 Melanthiaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ12~30 cm。根出葉は卵形~狭卵形で、柄と共に長さ2~8 cm。花期は5月。花茎の上部にまばらに10~20個ほどの花をつける。花被片は白色あるいは緑白色、帯紫色で、上方の4花被片は糸状で先は広ならず長さ9~15 mm、下方の2花被片は退化する。雄蕊は6個。蒴果は長さ3~4 mm。類似のシライトソウは花を密につけ、花被片の長さは10 mmほどである。

2. 分布

日本固有種で、本州（静岡県、愛知県、紀伊半島）、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の谷間のやや湿った林床や岩石地に生育する。

4. 生育状況

産地は限られていて個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

園芸採取(41)と生育環境の悪化(71)が減少の主要因である。

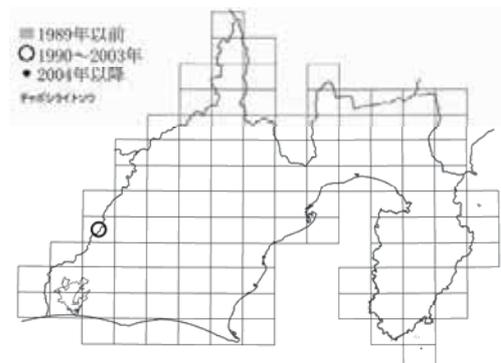
6. 保護対策

生育地の保護と、園芸採取を防ぐために、産地情報の公開には慎重な配慮が必要である。

(湯浅保雄)



©フォトライブラリ



コシノコバイモ *Fritillaria koidzumiana* Ohwi

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ユリ科 Liliaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ10~20 cm。鱗茎は球形で径1 cm、半球形の2個の鱗片からなる。茎の上部に2枚の対生葉があり、その上に3枚の輪生葉をつける。葉は無柄で披針形から広線形で長さは3~6 cm。花期は4月。花は広鐘形で茎頂に1個つき下向きに開く。花被片は長さ15~20 mm、長楕円形で淡黄色、暗紫色の網目模様が入る。内花被片の縁に小突起がある。葯はクリーム色。近似種のみノコバイモは内花被片の縁は平滑である。

2. 分布

日本固有種で、本州（山形県、福島県~石川県、静岡県、岐阜県）に分布する。県内では中部、西部に分布する。

3. 生育環境

山地の林床に生育する。

4. 生育状況

産地は少ない。産量は少ない。開花株は少ないが一葉の株は多く見られる。

5. 減少の主要因と脅威

園芸採取(41)が主要因である。植林やアオキなどの常緑樹による被陰(71)も脅威である。

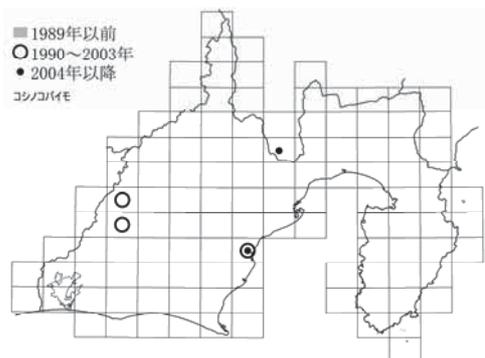
6. 保護対策

生育地の保護と園芸採取を防ぐために立ち入りを禁止する。

(宮崎一夫)



静岡市 2014年4月10日 宮崎一夫



カイコバイモ *Fritillaria kaiensis* Naruh.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

ユリ科 Liliaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ10~20 cm。茎の上部に2枚の葉が対生し、その上に3枚の葉が輪生する。茎頂に1個の杯状鐘型の花を下向きにつける。花のカーブは、国内産コバイモの中で、最もゆったりとして優美である。花被片は6枚あり長さ1.2~2.0 cmで同形同大。内部の中肋、縁に突起はない。花被片の外部には、淡紫色のぼんやりとした斑紋があり、中央にやや濃い斑紋がある。本県産の個体は、斑紋がやや濃い。

2. 分布

日本固有種で、本州(東京都、山梨県、静岡県)に分布する。県内では東部(富士市、富士宮市、旧芝川町)に分布するが、最近、中部(龍爪山付近)でも発見されている。

3. 生育環境

落葉広葉樹の明るい林の傾斜地を好む。

4. 生育状況

小型で目につきにくく、産地は限られている。

5. 減少の主要因と脅威

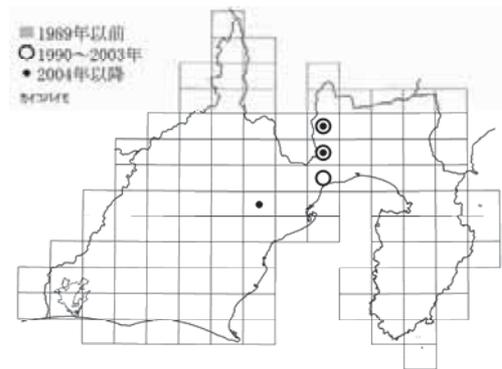
園芸目的の採取(41)は脅威ではあるが、最大の脅威は、スギ、ヒノキの植林(71)と、林の放置(53)による下草の繁茂、ササの侵入である。

6. 保護対策

特定第一種国内希少野生動物種及び静岡県指定希少野生動物に指定。里山の植物であり、適度に手入れされた林の維持が欠かせない。生態と影響要因をよく理解した保護団体の育成などが必要である。(西口紀雄)



富士宮市 2007年3月9日 西口紀雄



ヒメアマナ *Gagea japonica* Pascher

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ユリ科 Liliaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。地下に鱗茎をもち、春5~20 cmほどの茎をあげて、黄色の小さな花を咲かせる。根出葉は1枚。葉は、長さ10~20 cmで、巾は2 mmほどの線形である。半円筒形で内面が窪む。花は長さ6~9 mm。繊細な花で、1~5個つく。

2. 分布

日本固有種で、北海道から本州(長野県、静岡県、滋賀県)に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

低山の湿った草原に生育する。

4. 生育状況

朝霧高原の草原に生育する。個体数は少なく、ほとんど目につかない。

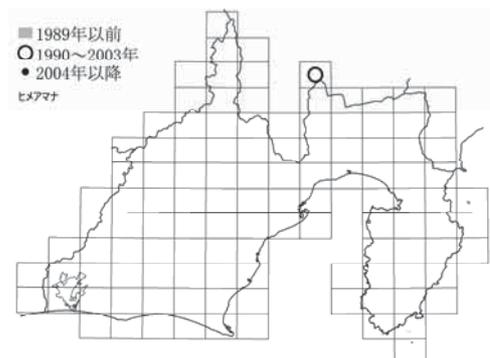
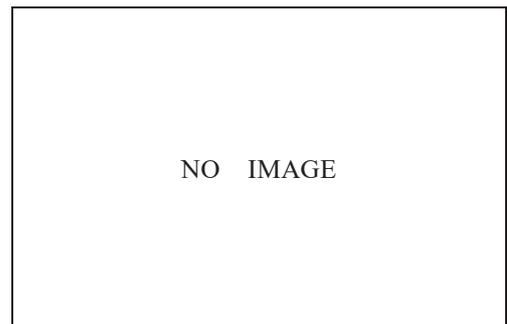
5. 減少の主要因と脅威

草地の開発(16)、山林伐採(11)が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地の保護と植生の遷移を防ぐことが急務である。

(西口紀雄)



ヒナラン *Amitostigma gracile* (Blume) Schltr.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ5~15 cm。根は紡錘状に肥厚している。葉は茎の下部に1枚つき、長さ3~8 cm、幅1~2 cmの長楕円~広披針形で基部は茎を抱く。花茎はやや斜めに立つ。花期は6~7月。淡紅色の小花が10~15個、一方に偏ってつく。唇弁は他の花被片より長大で、ほぼ中央で3裂する。距は細い筒状で長さ1~1.5 mmと短い。

2. 分布

国外では中国、朝鮮半島に、国内では本州(関東地方以西)、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

山地の樹林下の岩上に着生している。川沿いの岩上にも見られる。

4. 生育状況

県内では唯一浜松市天竜区佐久間町で見つかったが、今回の調査では確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

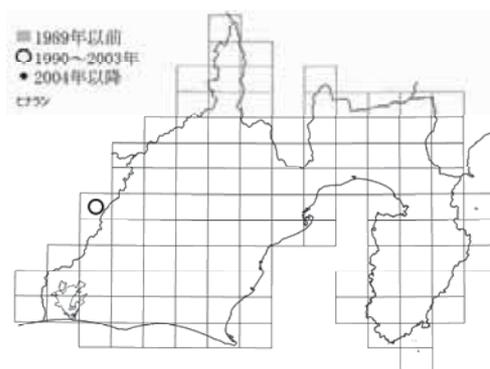
山林伐採(11)などによる生育環境の悪化や河川工事(13)が減少の主要因である。また園芸採取(41)も脅威である。

6. 保護対策

生育が確認されたら、森林伐採などの急激な環境変化を防ぐこと。また、園芸採取を防ぐため、産地情報の公開には慎重な配慮が必要である。(湯浅保雄)



浜松市 2002年6月20日 杉野孝雄



ユウシュンラン *Cephalanthera erecta* (Thunb.) Blume

var. *subaphylla* (Miyabe et Kudô) Ohwi

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

菌従属栄養の多年草。高さ10~15 cm。葉は退化して長さ2 cm、淡緑色でやや厚みがある。花期は5月。花は白色で長さ5 mm、茎頂に数個上向きに半開する。唇弁は褐色の筋がある。距は斜めに突き出る。近似種のギンランは花の長さ7~9 mmである。

2. 分布

国外では朝鮮半島、濟州島に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

温帯から亜高山帯の山地の落葉樹林下で、斜面の下部にある砂礫の多い林床に生育する。

4. 生育状況

産地は中部の奥地で産量は少ない。矮小で目立たないので、確認がやや困難な種である。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移(54)と環境変化(71)が主要因となる。

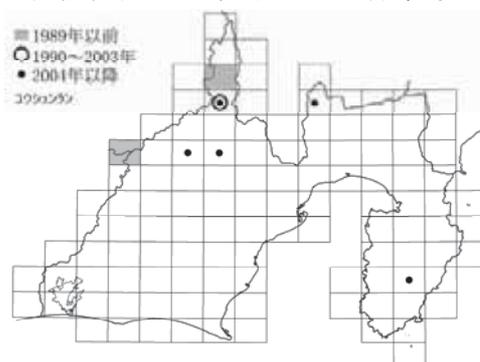
6. 保護対策

特殊な生態の植物なので森林伐採の回避だけでなく、生育環境の保全が重要である。

(西口紀雄・宮崎一夫)



川根本町 2018年4月22日 宮崎一夫



**タカネアオチドリ *Dactylorhiza viridis* (L.) R. M. Bateman,
A. M. Pridgeton et M. W. Chase**

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし ラン科 Orchidaceae
[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ8~10 cm。葉は互生しふつう1~4個あり長楕円形。花は総状につき緑色。萼片は狭卵形で長さ5 mm。唇弁はやや楔形で長さ8 mm、先が浅く3裂する。近縁種のアオチドリは冷温帯に分布して高さ20~30 cm。

2. 分布

日本固有種で南アルプスに分布し、県内では中部に分布する。

3. 生育環境

高山帯下位のハイマツ林下に生育する。

4. 生育状況

産地は南アルプスに限定的である。産量はきわめて少ないと思慮される。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移(54)が主要因である。園芸採取(41)も脅威である。

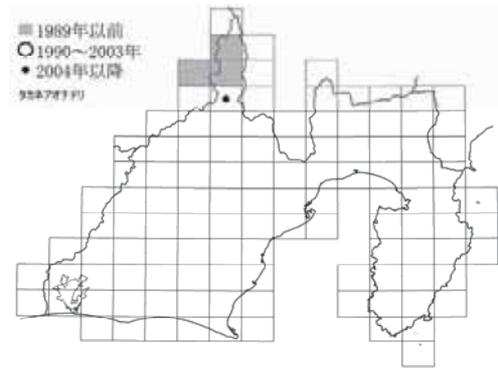
6. 保護対策

生育地が確認された場合は、植生遷移を抑制するなどの生育環境を維持管理することが重要である。

(宮崎一夫)



静岡市 2010年7月17日 室伏幸一



マヤラン *Cymbidium macrorhizon* Lindl.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし ラン科 Orchidaceae
[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

菌従属栄養の多年草。高さ10~30 cm。花茎は淡緑色の円柱形で、下部に膜質鞘状の葉が退化した鱗片葉をつける。花期は6~10月。花は白色で2~6個つき径3 cm、紅紫色の斑模様がある。萼片は皮針形で先がとがり長さ2 cm。唇弁は長楕円形で反曲し長さ15 mm。近縁種のアギランは葉が狭長楕円形。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、中国に、国内では本州(関東以西)、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯の常緑樹林やスギ林の林内や林縁に生育する。

4. 生育状況

浜松市と伊東市に生育し、産量は局所に群生する。生育状況は年による消長があり、発生する場所も近くに移動する。

5. 減少の主要因と脅威

植生の遷移(54)が主要因である。観察者や撮影者の踏圧(51)も脅威である。

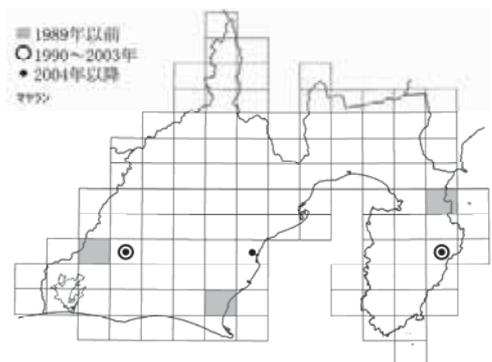
6. 保護対策

生育地は過去の場所も含めて、立ち入りを禁止することが重要である。産地情報の公表には慎重な配慮が必要である。

(宮崎一夫)



焼津市 2018年7月18日 宮崎一夫



ハコネラン *Ehippianthus sawadanus* (F. Maek.) Ohwi ex Masam. et Satomi

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ10~20 cm。葉は1枚で楕円状円形、長さは1.5~3 cm。花期は6~7月。花茎に3~8花をつける。全体にコイチョウランに似るが、花は緑黄色で唇弁に歯牙があり、蕊柱の上方両側に翼状の突起がある。フォッサマグナ要素の植物とされている。

2. 分布

日本固有種で、本州(東京都、神奈川県、和歌山県)に分布する。県内では伊豆、東部(愛鷹山、富士山)、中部(安倍奥)、西部(旧水窪町)に分布する。

3. 生育環境

ブナ帯付近の腐植土に生育する。

4. 生育状況

道路の法面などの腐植土に生育する。春先の降水量にも左右され、年によって消長が激しい。シカによる食害も見ている。個体数は少なく、産地は限られている。

5. 減少の主要因と脅威

山林伐採(11)などの生育地の破壊が心配される。

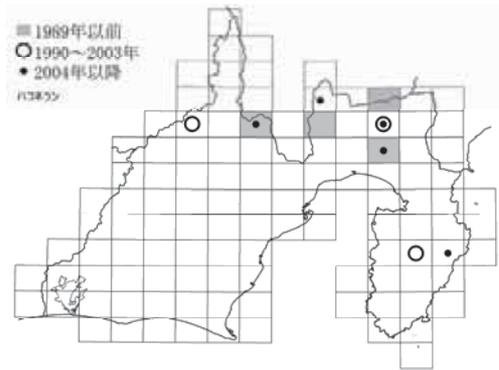
6. 保護対策

小型の地味なランであり、園芸目的の採取は確認していない。踏みつけ、森林の伐採は懸念される。

(西口紀雄)



裾野市 2017年7月6日 香西博子



トラキチラン *Epipogium aphyllum* Sw.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

菌従属栄養の多年草。高さ10~30 cm。茎は肉質でまばらに鞘状葉がある。花期は8~9月。茎の上部に2~8個の花を総状につける。花は淡黄褐色で紅紫色の細点がある。萼片と花被片は狭披針形で、長さ12~14 mm。唇弁は3裂して中裂片は上方に反曲する。距は直立して長さ4~8 mm。近縁種のアオキランは唇弁が3裂しない三角状で内側に反曲する。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ユーラシア大陸に、国内では北海道、本州(東北、中部)に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

亜高山帯の針葉樹林下に生育する。

4. 生育状況

産地は南アルプスに局限している。産量は少ない。生育状況は年による産量の消長がある。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移(54)が主要因である。土壌の流出(71)やマニアによる採取(41)も脅威である。

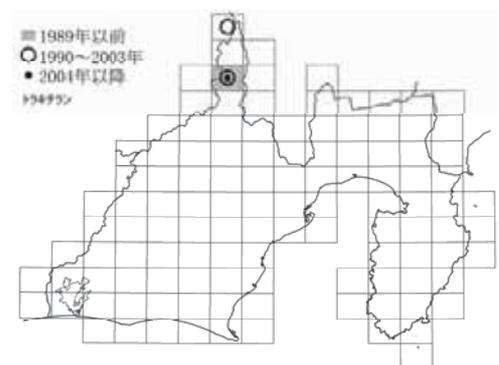
6. 保護対策

生育地は過去の場所も含めて、立ち入りを禁止することが重要である。産地情報の公表には慎重な配慮が必要である。

(宮崎一夫)



静岡市 2006年9月2日 加藤 徹



ナヨテンマ *Gastrodia gracilis* Blume

(=ナガイモヤガラ、タイワンアケヤガラ)

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

菌従属栄養の多年草。高さ10~60 cm。葉は退化し、鱗片葉をつける。花期は6~7月。5~15個の白褐色の花をつける。唇弁は三角形で基部は切形、縁は細裂しない。唇弁は、風や人が触るなどの振動で上に巻き上がる。

2. 分布

日本固有種で、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯の照葉樹林下、スギ林に自生する。

4. 生育状況

東伊豆町、静岡市、焼津市、掛川市、森町などに生育する。年により消長が激しい。

5. 減少の主要因と脅威

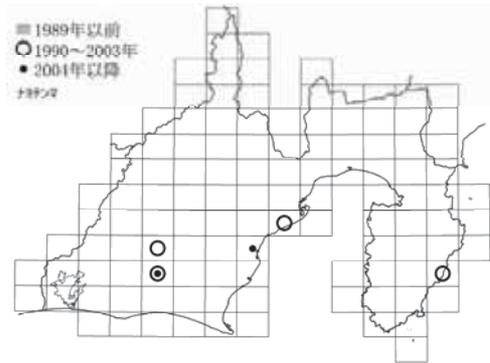
山林の伐採(11)、林の下草の伐採、踏みつけ(51)など、デリケートな植物である。何がどう悪影響なのか調査もできていない。

6. 保護対策

生育条件が不明なので、今のところそっとしておくしか方法がない。
(西口紀雄)



焼津市 2016年6月22日 宮崎一夫



ヒロハツリシュスラン *Goodyera pendula* Maxim.

f. *brachyphylla* (F. Maek.) Masam. et Satomi

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

樹木に着生する多年草。高さ10~20 cm、垂れ下がる。葉は常緑で数個あり、卵形で長さ2~3 cm。花期は7~8月。穂状花序は花を多数つけ、上向に曲がる。萼片は長さ4 mm。花は白色。側花弁は狭倒披針形。唇弁は広卵形で、萼よりも少し短く基部が袋状である。近縁種のツリシュスランは葉が広披針形である。

2. 分布

日本固有品種で、北海道、本州(中部以北)に分布する。県内では西部、中部、東部、伊豆に分布しており、静岡県は南限自生地である。

3. 生育環境

温帯深山の雲霧に覆われる老木の樹幹で、日陰側の苔むした中に生育する。

4. 生育状況

産地は多く点在する。各地とも産量は少ない。巨樹が朽ちて強風で倒れると、生育が悪化することや採取が容易になる。

5. 減少の主要因と脅威

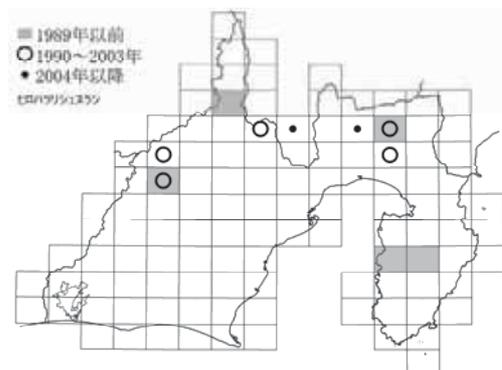
倒木や森林伐採(11)が主要因であるが、園芸目的の採取(41)も脅威である。

6. 保護対策

森林伐採の際には皆伐せず巨木は保全する。(宮崎一夫)



静岡市 2018年11月3日 室伏幸一



フジドリ *Neottianthe fujisanensis* (Sugim.) F. Maek.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

樹木に着生する多年草。高さ4~7 cm。葉は下方1枚、4~5 cm 線状倒披針形で円頂、上に小形線状披針形の1葉と、さらに小型の葉状の苞がある。花期は7月。花は2~5個、淡紅色、唇弁は長楕円形で中部両側に1対の耳状小片あり。距は楕円形で短い。和名は、富士山で発見されたことに由来する。

2. 分布

日本固有種で、本州(青森県、秋田県、新潟県、山梨県、静岡県)に分布する。県内では、東部(富士山、愛鷹山)、中部(安倍峠)、西部(白倉国有林)に記録があるが、近年確認されていない。

3. 生育環境

温帯のブナの樹幹上に着生する。

4. 生育状況

近年確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

山林伐採(11)やブナなどの古木の枯死(54)で減少した。

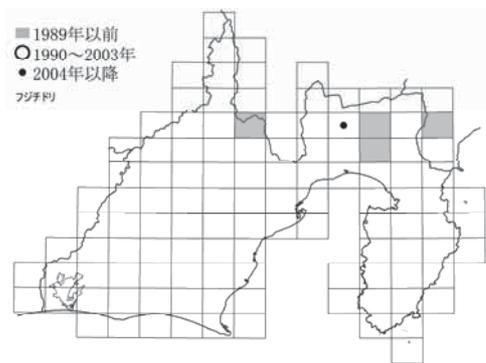
6. 保護対策

確認された場合は、産地の公開に配慮することの他、慎重な配慮が必要である。

(西口紀雄)



静岡県 1976年8月27日 佐藤政幸



ダイサギソウ *Habenaria dentate* (Sw.) Schltr.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ30~70 cm。茎の下部に、4~5枚の葉があり、また上部に少数の鱗片葉がある。葉は先の尖った楕円形で長さ5~15 cm前後、巾1 mm前後の白い縁取りがある。花は、萼片、花弁ともに白い。唇弁の中裂片は細いが、側裂片は巾広く、外縁に不整な鋸歯がある。

2. 分布

国外では東南アジア、ネパール、シッキムなどに、国内では本州(千葉以西)、四国、九州、沖縄に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

日当たりのよい湿地や湿った草地に生育する。

4. 生育状況

小笠山周辺や旧佐久間町の記録がある。近年生育が確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

草地の開発(16)、管理放棄による環境の変化(53)などで減少している。

6. 保護対策

産地が確認された場合は、生育地への立ち入りの禁止と、園芸採取と生育環境の改変を防ぐ手立てを考える必要がある。

(西口紀雄)



© PIXTA



オオミズトンボ *Habenaria linearifolia* Maxim.

(=サワトンボ)

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ 40~60 cm。葉は茎の下部に数個あり、線形で長さ 10~20 cm、基部は茎を抱く。花期は 8~9 月。花は白色で長さ 1~1.5 cm、茎の上部に 5~7 個つける。萼片は卵形で長さ 7 mm。唇弁は十字状、各裂片は線形で細く長さ 15 mm。唇弁の側裂片は下向きに湾曲する。距は長さ 2.5~3 cm。近縁種のみズトンボは唇弁の側裂片が斜上し、距は長さ 1.5 cm。

2. 分布

国外ではウスリー、アムール、中国、朝鮮半島に、国内では北海道、本州（中部以北）に分布する。県内では東部と西部に分布する。

3. 生育環境

温帯の日当たりがよい湿原の草地に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) に東部と西部に各 1ヶ所の記録がある。前回 (2004 年) の調査と今回の調査でも確認できない。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移 (54) や湿原の開発 (15) が主要因である。園芸採取 (41) も脅威である。

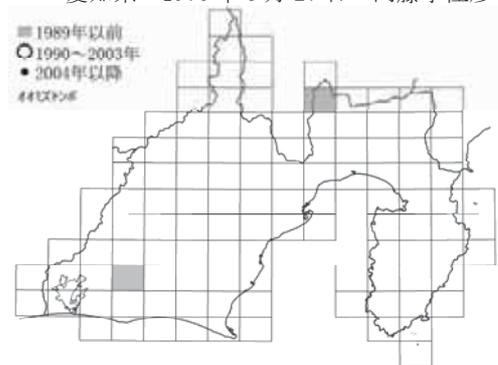
6. 保護対策

きわめて個体数が少ない種であり、生育地の保護と園芸採取を防ぐため、産地情報の公表には慎重な配慮が必要である。

(宮崎一夫)



愛知県 1976年8月27日 内藤宇佐彦



ヤクシマアカシュスラン *Rhomboda yakusimensis* (Masam.) Ormerod

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 10~25 cm。根茎は地上を這う。茎は直立する。葉は濃緑色のややビロード状で中央脈が淡緑色、卵状長楕円形で長さ 3~8 cm、3~5 個ある。花期は 9~10 月。帯紅白色の花を 3~5 個つける。萼片と花弁は共に長さ 3 mm。唇弁は内部に突起がある。近縁種のみメノヤガラは普通葉がない。

2. 分布

国外では台湾、ジャワに、国内では本州（静岡県西部以西）、四国、九州に分布する。県内では西部に分布し、北東限の自生地である。

3. 生育環境

暖帯低山の常緑樹林下で、薄暗い湿った所に生育する。

4. 生育状況

近年、西部で確認された。産量は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

土壌の乾燥化 (71) や植生遷移 (54) が主要因である。園芸採取 (41) も脅威である。

6. 保護対策

分布の限界に生育する貴重な植物であり、生育地の保護保全を図りたい。産地情報の公表には慎重な配慮が必要である。

(宮崎一夫)



磐田市 2005年9月17日 宮崎一夫



ヒメノヤガラ *Chamaegastrodia sikokiana* Makino et F. Maek.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

菌従属栄養の多年草。高さ5~20 cm。地上茎には毛がなく鱗片葉を互生する。花期は7~8月。総状花序に5~15個の花をつける。花も茎も橙色。萼片と側花弁の長さは3~4 mmで筒状になって先がわずかに開く。

2. 分布

国外では朝鮮半島南部、中国南西部からヒマラヤに、国内では本州(岩手県以南)、四国、九州に分布する。県内では伊豆と東部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の落葉広葉樹林や常緑広葉樹林のやや明るい林床。

4. 生育状況

これまでに確認された産地や個体数は少ない。しかし、目立たない植物なので、よく探せばかなり広い範囲に分布している可能性がある。

5. 減少の主要因と脅威

常緑広葉樹林の伐採(11)や山林の開発(23)が減少の主要因である。

6. 保護対策

特になし。

(湯浅保雄)



賀茂郡松崎町 2017年9月4日 宮崎一夫



クロクモキリソウ *Liparis koreana* Nakai var. *honshuensis* K. Inoue

(=クロクモキリ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-②③) 変更コード4

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー なし: 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ30 cm。茎は肥厚して球状。葉は2枚で楕円形。縁は細かく縮れる。幅5~7 cm、長さ10 cmほどである。花期は6~8月。花茎に5~10個ほどの花をつける。花は暗紫色で唇弁は厚く、垂直に外曲する。近縁のフガクスズムシは、樹上に着生し、花茎の高さは3~10 cm、葉も1.5~5 cmと小さい。

長野県で発見され、県内では2014年に確認された。オオフガクスズムシとの類縁関係も今後の検討課題である。

2. 分布

日本固有変種で、本州中部に、県内では東部と中部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯の林床や苔の生えた岩上などに生育する。

4. 生育状況

大井川源流部地域では、場所によってはかなりの密度で生育しているが、他では非常に少ない。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採(11)とシカによる食害(52-1)が減少の主要因である。園芸採集(41)も脅威である。

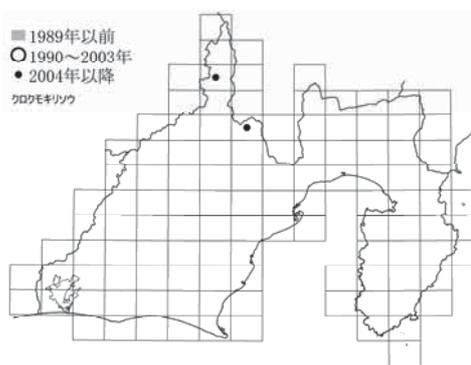
6. 保護対策

生育地にシカの防護柵を設置し保護する必要がある。

(湯浅保雄)



静岡市 2015年7月8日 湯浅保雄



フガスズムシソウ *Liparis fujisanensis* F. Maek. ex F. Kōta et S. Matsumoto

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

樹木に着生する多年草。高さ3~10 cm。花期は5~6月。スズムシソウに似て、唇弁は中部で後方へ強く半曲する。唇弁は、スズムシソウ同様に紫色。他の花弁は細く、わずかに紫色を帯びる。富士山が基準産地である。

2. 分布

日本固有種で、本州、四国、九州に分布する。県内では東部（富士山、愛鷹山）、中部（安倍川上流）に分布する。

3. 生育環境

ブナ、カエデなどの巨木に張り付いたコケの中に着生する。

4. 生育状況

生育基盤である着生植物全体が著しく減少傾向にある。

5. 減少の主要因と脅威

園芸目的の採取(41)が懸念される。その他、着生植物全体が減少していることは、酸性雨などの影響(71)も考える必要がある。

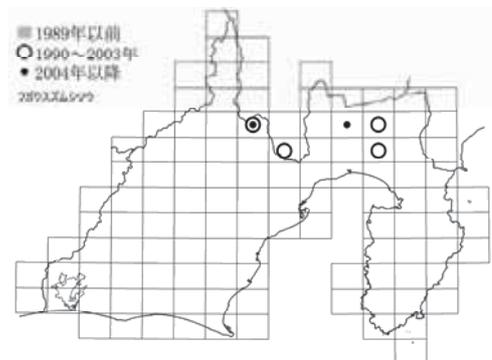
6. 保護対策

老木、古木の保護が必要である。倒木も目立つが、倒木に着生している個体は、枯死もしくは人為的な採取により壊滅している。これらを保護する必要がある。

(西口紀雄)



富士宮市 2017年7月6日 宮崎一夫



セイトカスズムシソウ *Liparis japonica* (Miq.) Maxim.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さは10~30 cm。葉は広楕円形、長さ6~7 cm、幅3~5 cm。2個つける。花茎は直立する。花期は6~7月。淡緑色または帯紫色の花をつける。唇弁の長さは9~12 mm。側萼片は線状披針形で長さ8~9 mmである。類似のスズムシソウでは、唇弁の長さが14~17 mm、側萼片は広線形で長さ10~15 mmであるので区別できる。

2. 分布

国外ではアムール、中国(東北)、朝鮮半島に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

亜寒帯~冷温帯林の林床や苔の生えた岩の上。

4. 生育状況

各地に記録はあるが、前回(2004年)の調査時でも今回の調査でも生育は確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採(11)による生育環境の消失が減少の主要因であるが、園芸採取(41)も一因であると指摘される。

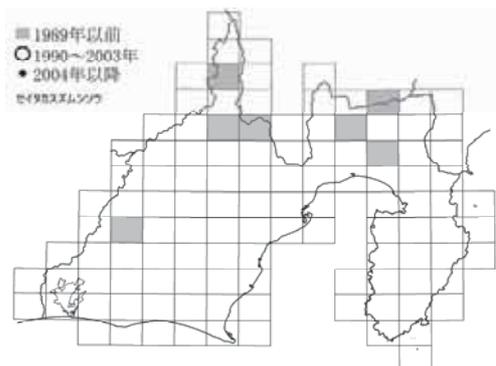
6. 保護対策

生育が確認された場合は、生育地の環境を保全し、園芸採取を防ぐため情報公開は慎重に行う。

(湯浅保雄)



山梨県 2019年7月2日 宮崎一夫



サカネラン *Neottia papilligera* Schltr.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

菌従属栄養の多年草。高さ 20~40 cm。根は束生し、先が上向する。茎はやや太く肉質で毛が密生し、鞘状の退化葉をつける。花期は 5~6 月。花序全体に淡黄褐色の短腺毛がある。花は淡黄褐色で多数密生する。萼片や花弁は倒卵形で長さ 5~6 mm。唇弁は長さ 10~12 mm、2 中裂して裂片は横に大きく開く。距はない。近縁種のヒメムヨウランは唇弁の長さが 2~3 mm。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、サハリン、シベリアに、国内では北海道、本州（中部以北）に分布する。県内では東部、中部（南アルプス）に分布する。

3. 生育環境

冷温帯の山地上部から亜高山帯の落葉樹の林床に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌（1984）に東部と南アルプスに記録がある。前回（2004 年）調査と今回の調査でも確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採（11）と植生遷移（54）が主要因である。

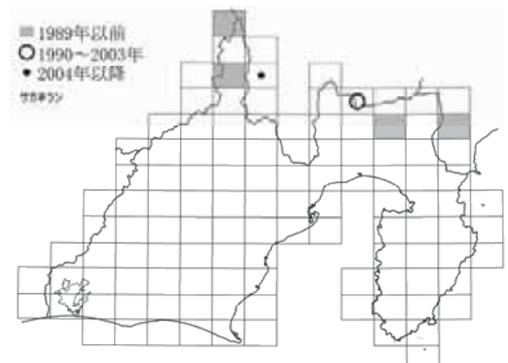
6. 保護対策

森林伐採は皆伐しないで、択伐して大きな環境の変化を与えないように配慮することが重要である。

（宮崎一夫）



山梨県 2019年5月27日 宮崎一夫



ヒナチドリ *Ponerorchis chidori* (Makino) Ohwi

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

樹木などに着生する多年草。高さ 7~15 cm。葉は下部の 1 枚あり、広披針形、長さ 6~12 cm、幅 1.2~3.5 cm。基部は茎を抱く。花期は 7~8 月。紅紫色の花を数個つける。白色花もある。背萼片は長楕円形、側萼片は斜卵形、ともに長さ 5~6 mm。側花弁は広卵形、萼片より短い。唇弁は深く 3 裂し、長さ 8~10 mm。距は長さ 13~17 mm で、基部はわずかに太くなる。

2. 分布

日本固有種で、北海道、本州、四国に分布する。県内では伊豆、東部、中部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯の山地の苔の生えた樹幹や岩石に着生する。

4. 生育状況

2 前回（2004 年）調査では 2 ヶ所で確認されたが、今回の調査では確認することはできなかった。

5. 減少の主要因と脅威

天然林の伐採（11）と園芸採取（41）が減少の主要因である。

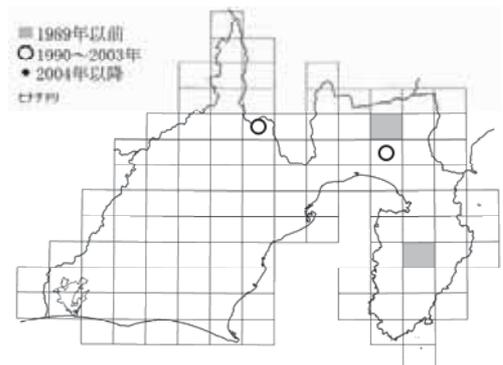
6. 保護対策

大径木からなる天然林の伐採を制限し、また園芸採取を防ぐために産地情報の公開に注意すること。

（湯浅保雄）



静岡市 2002年6月5日 杉野孝雄



カモメラン *Galearis cyclochila* (Franch. et Sav.) Soó

(=イチョウチドリ)

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ10~20 cm。根は紐状である。茎は翼がある。葉は広楕円形で長さ4~6 cm、幅2~5 cm、1個である。花期は5~6月。苞葉は花の下に1個つき長楕円形。花は2個で淡紅色、稀に白色。萼片と花弁には覆輪状に濃い紅紫色の縁がある。唇弁は広楕円形で先が丸く紅紫色の斑点がある。近縁種のハクサンチドリは葉や花の数がより多く、唇弁の先が尾状鋭尖頭である。

2. 分布

国外ではサハリン、朝鮮半島、ウスリーに、国内では北海道、本州、四国に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

温帯から亜高山帯で深山の湿気の多い林縁や溪流沿いの岩上に生育する。

4. 生育状況

富士山、南アルプス、旧水窪町で確認されている。株数は少ない。草地の中に、数株ずつがまとまって生えている。

5. 減少の主要因と脅威

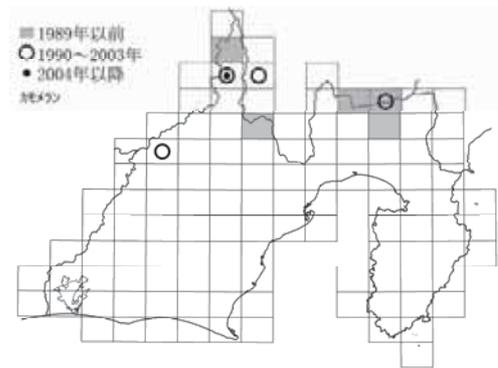
園芸目的による採取(41)が主要因である。

6. 保護対策

園芸採取を防ぐために、産地情報の公開には慎重な配慮が必要である。(宮崎一夫)



©2020 K.Miyazaki
浜松市 1999年5月30日 宮崎一夫



シロウマチドリ *Limnorchis convallarifolia* (L.) Lindl.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ25~50 cm。根の一部は紡錘状に肥厚する。葉は数個が互生し、楕円形で長さ5~7 cm、上方のものは次第に小さくなる。花期は7~8月。花は黄緑色で多数を総状につける。苞は披針形で花よりも長い。側萼片は卵楕円形。唇弁は長楕円状卵形で長さ5 mm。距は背萼片と同長で4~5 mm。近縁種のミズチドリは花が純白色で、距の長さが背萼片よりも長い。

2. 分布

国外では千島、カムチャツカ、アリューシャンに、国内では北海道、本州中部に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布しており、静岡県は分布の南限自生地である。

3. 生育環境

高山帯のやや湿った草地に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)に南アルプスの記録があり、前回(2004年)確認はなかったが、今回南アルプスで確認された。

5. 減少の主要因と脅威

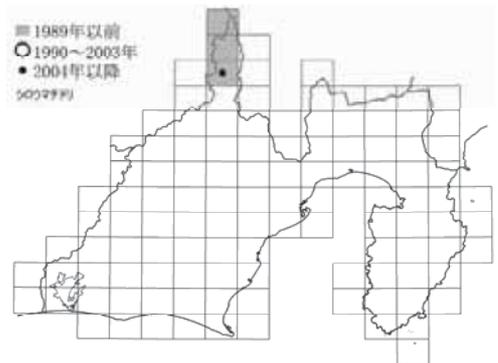
乾燥による植生遷移(54)や踏圧(51)が主要因である。園芸採取(41)も脅威である。

6. 保護対策

生育地は、植生遷移を抑制するなどの生育環境を維持管理することが重要である。(宮崎一夫)



©2020 T.Kato
静岡市 2015年7月20日 加藤 徹



トキシウ *Pogonia japonica* Rchb. f.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。茎の基部に鱗片葉があり、通常、葉は茎の中央につく。花期は5~7月。花は紅紫色で茎の先端に1個横向きにつき、斜めに平開する。唇弁は3裂し距はない。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ロシア東部に、国内では北海道から九州まで分布する。県内では全県下に広く分布する。

3. 生育環境

日当たりのよい山地の湿地に自生する。

4. 生育状況

各地の湿地に生育していたが、ほとんどの産地が失われた。最近では、稲取の細野高原以外に自生情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

湿地の開発(15)、管理放棄による植生の遷移(53)などで激減している。園芸目的の採取(41)で、最後の少数も絶滅が危惧される。

6. 保護対策

東伊豆町細野高原の生育地は静岡県指定の天然記念物として保護されている。

(西口紀雄)



東伊豆町 2016年6月17日 西口紀雄



カシノキラン *Gastrochilus japonicus* (Makino) Schltr.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

樹木に着生する多年草。高さ3~5cm。茎は短く気根で支えられ、垂れない。茎は短く先端は斜上する。葉は2列に互生して倒披針形で長さ3~6cm、基部は茎を抱く。花期は7~8月。花序は腋生して葉より短く4~10個の花をつける。萼辺と側花弁は淡黄色の狭楕円形で長さ4mm。唇弁は先が扇状に広がり、基部は半球状の袋となり暗紅褐色の斑紋がある。近縁種のモミランは茎が垂れないで付着し、葉の長さが1cmである。

2. 分布

国外では台湾に、国内では本州(千葉県以西)、四国、九州、沖縄に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯下部の常緑樹古木の樹幹に着生する。

4. 生育状況

牧之原台地で確認されている。着生する常緑樹の古木が少なく、産量はきわめて少ない。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採(11)が主要因である。園芸採取(41)も脅威である。

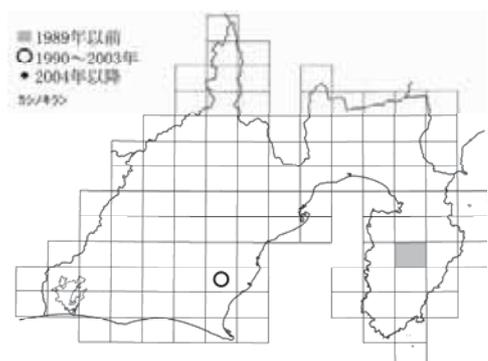
6. 保護対策

きわめて個体数が少ない種であるので、生育地の保護と園芸採取を防ぐために、産地情報の公表には慎重な配慮が必要である。

(宮崎一夫)



牧之原市 2002年7月14日 杉野孝雄



イヌマムカゴ *Platanthera iinumae* (Makino) Makino

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②⑤) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ 30 cm。中程に 2 個の葉がある。その上に披針形の鱗片葉が数個つく。葉は長さ 8~15 cm、幅 2~4 cm、基部はさやとなる。花期は 7~8 月頃。黄緑色の小花を多数、総状につける。唇弁は白く舌状。距は下垂し、長さ 1~1.5 mm で太く短い。

2. 分布

日本固有種で、北海道南部、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯から暖温帯の山地の林縁や湿った草地。

4. 生育状況

過去には各地に点在していたが、前回 (2004 年) 調査でも、今回の調査でも確認できていない。

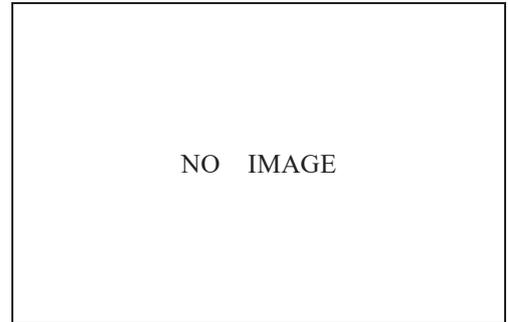
5. 減少の主要因と脅威

山林伐採 (11)、林道や登山道の整備 (24) による生育地の破壊が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地が確認されたら、生育環境に配慮して保護すること。

(湯浅保雄)



オオハクウンラン *Kuhlhasseltia fissa* (F. Maek.) Yukawa

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 7~13 cm。葉は茎の下部に 2~6 枚つき、卵円形または円形で長さ 9~13 mm。花期は 7~8 月。茎の上部に白色の花を 1~7 個つける。側萼片は長さ 5~6 mm、基部のみ合着し、唇弁の基部を包む。唇弁の基部はふくらんだ距となり、先は四角状となる。類似のハクウンランは、葉の長さ 3~7 mm。側萼片の長さは 4.5~5 mm である。

2. 分布

日本固有種で、本州 (静岡県) と伊豆諸島に分布する。県内では伊豆、東部に分布する。

3. 生育環境

常緑広葉樹林の林床。

4. 生育状況

数本ずつ固まって生育する、個体数は少ない。前回 (2004 年) の富士山麓の記録は、ハクウンランの誤同定の可能性がある。標本の再チェックが必要である。

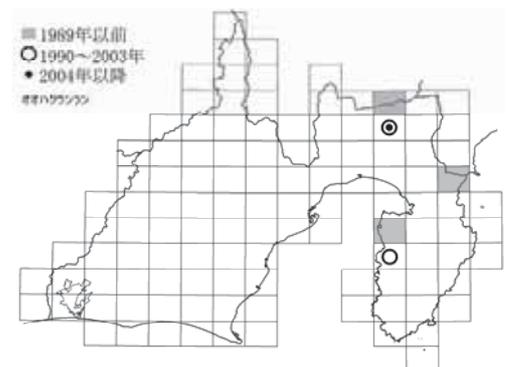
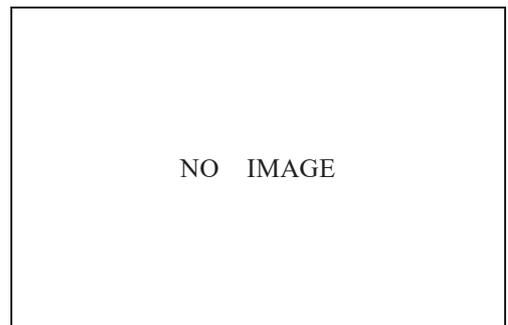
5. 減少の主要因と脅威

山林伐採 (11) による環境の変化が減少の主要因である。

6. 保護対策

山林伐採による生育地の急激な環境変化を避けること。

(湯浅保雄)



ショウキラン *Yoania japonica* Maxim.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

菌従属栄養の多年草。高さ10~25 cm。茎は太く淡桃色を帯びた白色で疎らに鱗片葉をつける。花期は6~8月。花は淡紅色で長花柄の先に2~8個つける。萼片は広楕円形で長さ2 cm、平開する。唇弁は萼片と同長で、中央に幅が広い細突起の条があり、紫色の斑点がある。距は淡黄色の長楕円形で長さ12 mm。近縁種のキバナノショウキランは萼片が斜開する。

2. 分布

国外では台湾、中国、アッサムに、国内では北海道、本州、四国、九州（屋久島）に分布する。県内では伊豆、東部、中部に分布する。

3. 生育環境

温帯から亜高山帯の湿り気のある林床に生育する。

4. 生育状況

近年の確認は東部の1ヶ所である。産量はきわめて少ない。

5. 減少の主要因と脅威

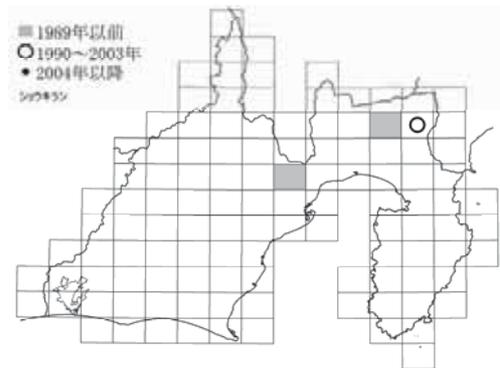
植生遷移(54)が主要因である。大雨による生育地の攪乱(55)、観察者や撮影者による踏圧(51)も脅威である。

6. 保護対策

きわめて個体数が少ない種であるから、生育地の保護と園芸採取を防ぐために、産地情報の公表には慎重な配慮が必要である。(宮崎一夫)



長野県 2014年6月25日 宮崎一夫



ヒメシャガ *Iris gracilipes* A. Gray

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

アヤメ科 Iridaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。葉は長さ20~40 cm、幅1 cm前後で光沢がない。冬には枯れる。花期は5~6月、花茎は細長く20~30 cm、2~3の花をつける。花の直径は約5 cmで淡紫色。種子は赤褐色。倒卵形で長さ3 mm、1稜がある。類似のシャガの葉は長さ30~60 cmで光沢があり常緑。花はほぼ白色。3倍体であるため果実はできない。

2. 分布

日本固有種で、北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では東部、西部に分布する。

3. 生育環境

山地のやや乾いた林内や林縁部に生育する。

4. 生育状況

産地が限られており、個体数は非常に少ない。今回の調査で確認されなかったことは調査不足が原因と考えられる。

5. 減少の主要因と脅威

森林の伐採利用(11)や登山路の整備(71)、園芸採取(41)など。特に園芸採取の影響が大きい。

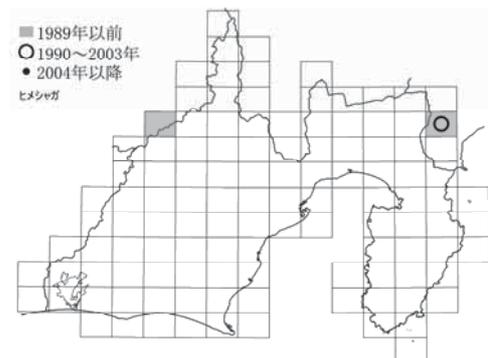
6. 保護対策

産地への立ち入りを禁止すること。

(湯浅保雄)



小山町 1996年6月1日 杉野孝雄



イズアサツキ *Allium schoenoprasum* L. var. *idzuense* (H. Hara) H. Hara

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

ヒガンバナ科 Amaryllidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。アサツキに似る。花期は6月。花被片は白色で、長さは7~9 mmで、先は短く尖る。当初、花茎が葉とは別に出るものについて、学名がつけられたが、後にアサツキと同じく葉の中央から花茎が出るものが大部分であることがわかった。

イズアサツキの大部分の花は桃色であるが、イズアサツキの正基準標本は白花である。

2. 分布

日本固有変種で、本州（神奈川県、静岡県）に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

海岸の岩場の窪地など、強い日ざしと潮風の当たる場所に生育する。

4. 生育状況

下田市爪木崎に生育する。10~20本の集団で生育している。イズアサツキ（桃色花）の個体数に比べて、イズアサツキ（白花）は、一部の場所にごく少数見られる。

5. 減少の主要因と脅威

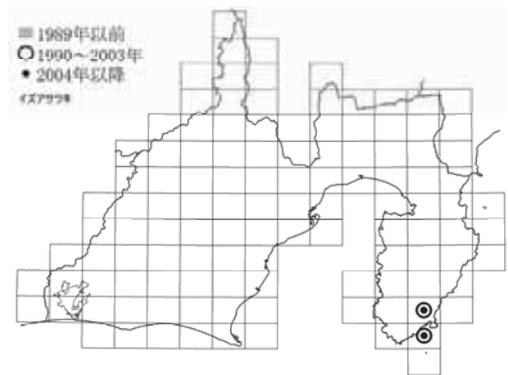
厳しい環境条件に生育しているので、干ばつなどの異常気象（55）が心配される。特にイズアサツキ（白花）は個体数も少なく、園芸採取（41）が懸念される。

6. 保護対策

イズアサツキ（白花）の多い地域については、厳重な立ち入り規制が必要である。（西口紀雄）



下田市 2012年7月10日 西口紀雄



ステゴビル *Allium inutile* Makino

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②⑤) 変更なし

ユリ科 Liliaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。鱗茎は球形で径 10~15 mm。根出葉は少数で長さ約 30 cm、線形で扁平、晩秋に出て翌年の夏に枯れる。花期は9~10月、花茎は秋になって出て高さ 15~30 cm。花茎の先端に散形状に5~6個の花がつく。花被片は白色で6個、基部は広鐘形に癒合し上部は開出する。蒴果は扁円形で長さ 4 mm。

2. 分布

日本固有種で、本州（茨城県、静岡県、愛知県、岐阜県、京都府）に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

湿った原野に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌（1984）には、磐田市、浜松市、湖西市などの記録があるが、前回（2004年）調査でも今回の調査でも確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

草地の開発（16）や植生遷移（54）が減少の主要因である。

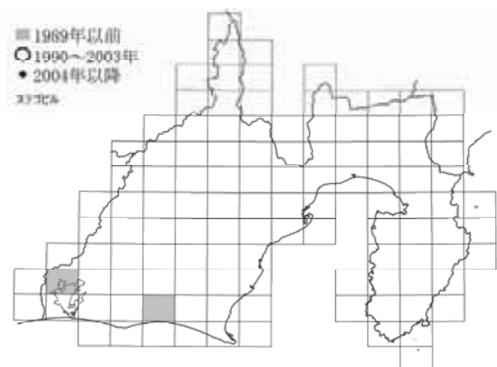
6. 保護対策

生育地が見つかった場合は、生育環境に配慮した保護が必要である。

（湯浅保雄）



愛知県 1975年9月15日 内藤宇佐彦



スズラン *Convallaria majalis* L. var. *manshurica* Kom.

(=キミカゲソウ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②③) 変更なし

ユリ科 Liliaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。葉は卵状長楕円形で長さ10~20 cm、幅3~7 cm。無毛で裏面はやや粉白色。花期は4~6月。花茎は長さ20~35 cmで葉叢の側に生じ、白色の広鐘形の花を10個ほどつける。花糸は鮮黄色で花糸と同長。ドイツスズランの花茎は葉叢の中心に立ち、花糸は淡緑色である。

2. 分布

国外では中国、シベリア東部、朝鮮半島に、国内では北海道、本州、九州に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

温帯の山地草原に生育する。

4. 生育状況

県内では富士山麓の草原にみられる。前回(2004年)の調査では1ヶ所で確認されているが、今回の調査では確認できなかった。消滅した可能性がある。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移(54)と園芸採取(41)が減少の主要因である。

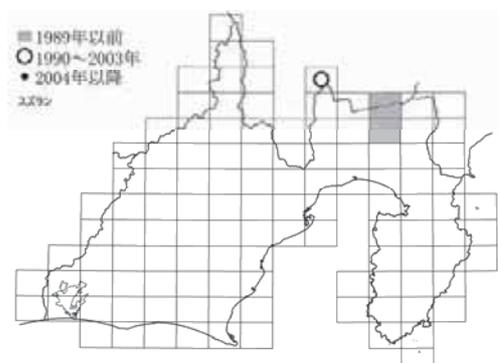
6. 保護対策

生育が確認できたら、生育環境を最適なものに改良し、維持すること。また、園芸採取を防ぐため生育情報の公開に注意すること。

(湯浅保雄)



山梨県 2011年6月6日 宮崎一夫



クロホシクサ *Eriocaulon parvum* Koern.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ホシクサ科 Eriocaulaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

一年草。葉は線形で長さ4~10 cm、幅1~2 mm。花期は8~9月。頭花は球形で藍黒色、長さ4~5 mm、白色の短毛がある。ホシクサの頭花が灰黒色を帯びる個体があるので同定には注意が必要である。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

池沼や水田などの湿地に生育する。

4. 生育状況

かつては所々に生育していたものと思われるが、最近では生育が確認されず、減少傾向が著しい。

5. 減少の主要因と脅威

湿地や沼地の開発、湿田の減少(12、15)や除草剤の影響(32)によって減少したものと思われる。

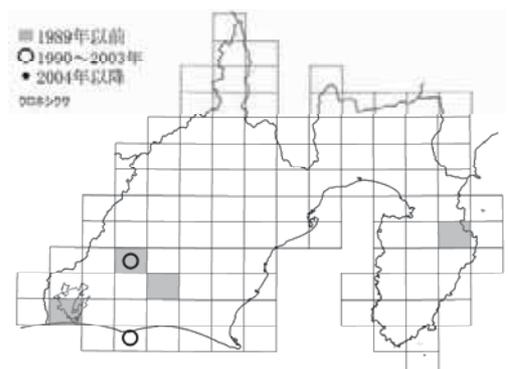
6. 保護対策

生育地の保全(湿地)、水田の場合は耕作形態の維持が重要である。

(内藤宇佐彦)



岐阜県(植栽) 2012年10月10日 宮崎一夫



ゴマシオホシクサ *Eriocaulon senile* Honda

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

ホシクサ科 Eriocaulaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

一年草。クロホシクサに似る。葉の幅が広く3~8 mmで9~13脈ある。花期は8~9月。頭花は球形で径3~8 mm、花床が無毛で、雌花の花弁の上端は凹形である。

2. 分布

国外では中国、ヒマラヤに、国内では本州（静岡県、三重県）、九州（長崎県、熊本県、宮崎県）に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

池沼や水田などの湿地に生育する。

4. 生育状況

旧豊岡村の休耕田に生育していたが、最近では見られない。

5. 減少の主要因と脅威

湿田の減少(15)や雑草の繁茂(54)、除草剤の影響(32)によって減少したものと思われる。

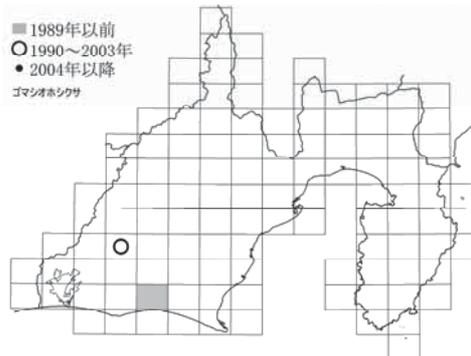
6. 保護対策

水質の保全と生育地の植生遷移の進行を抑制することが必要である。

(内藤宇佐彦)



磐田市 1999年12月12日 内藤宇佐彦



トダスゲ *Carex aequalta* Kük.

(=アワスゲ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 B類 (EN) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IA類 (CR)]

1. 種の解説

多年草。高さ30~70 cm。根茎は短く叢生する。葉は幅4~6 mmで下面は粉白色。茎の基部の葉鞘は赤褐色または黒紫色。果期は5~6月。小穂は茎の上方に3~4個集まってつく。頂小穂は雄性。線形で長さ2~4 cm。側小穂は雌性、円柱形で直立し、長さ3~6 cm。雌鱗片は緑白色。果胞は卵円形で長さ2.5~3 mm、瘦果は卵円形でレンズ状。柱頭は2岐。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では本州（関東地方から近畿地方）、九州北部に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

平地や河岸の湿性の草地に生育する。

4. 生育状況

2004年版RDBには旧浜北市に生育すると記載されているが、今回の調査では確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

湿地の開発(15)や土地造成(23)が減少の主要因である。

6. 保護対策

スゲの仲間は多数あり分類が難しい。同定は慎重に行い、貴重種を見落とすことのないようにしたい。環境に配慮した保全が必要である。

(湯浅保雄)



浜松市 2001年5月6日 杉野孝雄

